

ナニ處分スルヲ良トス

第四項 警察官ハ成ル可ク舍密家一名ノ立會ヲ受ケ且家宅倉庫又ハ置場ノ各部ヲ綿密ニ看守セシムル爲メ公力吏若干名ヲ伴フヲ要ス

第五項 製造ニ供用シタル器械及ヒ混合物ヲ發見押收スルカ爲メ精密ニ家宅ノ搜索ヲ爲ス可シ

第六項 告訴ニ係ル飲料其製造ニ供用シタル器械並ニ混合物ニハ犯人ノ面前ニ於テ封印ヲ附シテ其即時ニ運搬シ難キ物ナル時ハ安全ナル場所ニ之ヲ置ク可シ

○調書ノ文例

千八百何年何月何日余官吏ノ姓名、某氏其姓名、職業、於住所ヲ記ス

テ變造又ハ有害ノ飲料ヲ販賣スルノ報知ヲ受ケ鑒定人某貴下其身分及ヒ住所ヲ記スヲ伴ヒ附屬吏員數名ト共ニ其場所ニ到リ右ノ飲料ヲ隱匿シ又ハ他ニ運搬スル等ノ事ヲ豫防スル爲メ附屬吏員ヲシテ家宅ノ各部ヲ看守セシメタリ而シテ余ハ被告人ノ面前ニテ家宅搜索ヲ爲シタルニ何々ノ場所ニ於テ變造ト看做ス可キ葡萄酒ヲ發見セリ仍テ先ツ其葡萄酒凡ソ半リトルヲ黑色ノ硝子瓶ニ注入シテ之レニ封印及ヒ紙票ヲ附シ次ニ殘餘ノ葡萄酒若干樽及ヒ瓶數ヲ某所ニ置カシメタリ被告人某氏ヲ訊問シタルニ渠レ左ノ如ク答述セリ其答ヲ記ス

(被告人ニハ問答ヲ以テ疑問ヲ受ケシメ且其職業ヲ營ミ始メタル年

月ヲ證明セシム可シ

是ニ由テ余檢事實下ニ送附スル所ノ本書ヲ作リテ之ヲ朗讀シタル後テ被告人、鑒定人及ヒ附屬吏員ト共ニ之レニ姓名ヲ手署シタリ

◎賣肉店及ヒ賣肉商 原語「ブウシエール」
エー、ブウシエール

度量衡及道路ノ部ヲ參照ス可シ

第一項 賣肉ノ營業ハ素ヨリ自由ナル者ニシテ其數ニ定限アルコトナシ然レモ其營業上ニ行ハル、所ノ詐偽ヲ鎮壓、處罰スル法律ノ外ニ尙ホ公ケノ衛生及ヒ安寧ニ基キテ制定シタル地方警察規則ヲ遵奉セサル可ラス

第二項 賣肉ノ業ヲ營マント欲スル者ハ其賦課セララル

、所ノ營業稅ヲ納ムルノ外ニ尙ホ邑警察ヲ委任セラレタル行政官廳ニ豫メ其旨ヲ届出且衛生ニ關スル事ニ於テ檢査ヲ受クル爲メ其店ヲ開設セント欲スル場所ヲ申出ツルヲ要ス

○刑法要綱

第四百六十三條 有罪ナリト認定セラレタル一名又ハ數名ノ重罪ノ被告人コ酌量ス可キノ情狀アルコトヲ陪審ニ於テ決斷シタル時ハ其重罪ノ被告人ニ對シ法律上ニ定メタル刑ヲ左ノ如ク減輕ス可シ
若シ法律上ニ定メタル刑ノ死刑タル時ハ裁判所ニ於テ無期徒刑又ハ有期徒刑ヲ適用ス可シ
若シ其刑ノ無期徒刑タル時ハ裁判所ニ於テ有期徒刑又ハ懲役

ノ刑ヲ適用ス可シ
若シ其刑ノ城砦内ニ於ケル流刑タル時ハ裁判所ニ於テ單一ナル流刑又ハ禁獄ノ刑ヲ適用ス可シ然レモ第九十六條及ヒ第九十七條ニ定メタル場合ニ於テハ單一ナル流刑ノミヲ適用スル者トス

若シ其刑ノ流刑タル時ハ裁判所ニ於テ禁獄ノ刑又ハ退放ノ刑ヲ適用ス可シ

若シ其刑ノ有期徒刑タル時ハ裁判所ニ於テ懲役ノ刑又ハ第四百一條ノ成規ヲ適用ス可シ然レモ其禁錮時間ハ二年以下ニ減スルコトヲ得サル者トス

若シ其刑ノ懲役禁獄退放又ハ公權剝奪ノ刑タル時ハ裁判所ニ於テ第四百一條ノ成規ヲ適用ス可シ然レモ其禁錮時間ハ一年

以下ニ減スルコトヲ得サル者トス

此法典ニ施体ノ刑ノ最上限ヲ定ムル場合ニ於テ若シ減輕ス可キ情狀ヲ存在スル時ハ裁判所ニ於テ其刑ノ最下限又ハ施体以下ノ刑ヲ適用ス可シ

凡ソ刑法上ニ禁錮ノ刑及ヒ罰金ノ刑ヲ定ムル場合ニ於テ酌量減輕ス可キノ情狀アル時ハ裁判所ニ於テ假令ヒ再犯ノ場合ト雖モ禁錮ヲ六日以下ニ減シ罰金ヲ十六法以下ニ減スルコトヲ得可シ又其裁判所ハ右兩刑中ノ一ノミヲ別々ニ宣告スルコトヲ得可シ又ハ禁錮ニ換ユルニ罰金ヲ以テスルコトヲ得可シ但如何ナル場合ニ於テモ其刑ハ違警ノ刑以下ニ減スルコトヲ得サル者トス

第四百七十一條 左ニ記列スル者ハ一法以上五法以下ノ罰金

ニ處ス可シ

第十五 法律ニ循ヒ行政官廳ノ設ケタル規則ニ違背シタル者并ニ千七百九十年八月十六日決定二十四日公布ノ法律

第十一章第三條第四條及ヒ千七百九十一年七月十九日決定二十二日公布ノ法律第一章第四十六條ニ據リ邑廳ヨリ公布シタル規則又ハ決定書ニ從ハサル者

第四百七十九條要補 左ニ記列スル者ハ十一法以上十五法以下ノ罰金ニ處ス可シ

第六要補 法律ニ從ツテ制定シ且公布シタル代價表ニ定メタル價值以上ニ屠肉ヲ販賣シタル賣肉商

第四百八十條要補 左ニ記列スル者ニハ其景況ニ從ヒ五日以下ノ禁錮ヲ宣告スルヲ得可シ

第三要補 前條ノ第六項ニ定メタル場合ニ於ケル賣肉商

○斷案

左ニ掲グル各人ハ刑法第四百七十九條第六項ニ該當ス

第一 買主ヨリ要求シタル屠肉ノ分量ヲ賣渡スヲ拒シタル賣肉商(千八百五十六年八月二日破毀法院)

第二 買主ト特別ノ契約ヲ結ビタルヲ口實トシテ邑ノ代價表ニ定メタル價值以上ニ屠肉ヲ販賣シタル賣肉商(千八百五十二年三月二十全上日)

○賣肉店ニ關スル千七百八十二年六月一日ノ詔書要補

第七條 賣肉店主ハ壯健ナル家畜ニ非サレハ之ヲ屠殺シ及ヒ之ヲ調理スルヲ得ス又該店主ニ於テ腐敗シタル肉類ヲ販賣シ及ヒ之ヲ零賣スルヲ禁ス○貨物運送人市場商人耕夫又ハ其

他ノ各人ニ於テ死シテ産レタル犢牛、息ヲ塞キテ殺シタル犢牛、
 精又ハ白水ヲ以テ飼養シタル犢牛及ヒ産レテ六週ニ足ラサル
 犢牛ヲ引來リ及ヒ之ヲ販賣スルヲ禁ズ。○又賣肉店主ニ於テ
 定齡以上及ヒ以下ノ犢牛ヲ買入レ又ハ之ヲ販賣スルヲ禁ズ。
 ○若シ本條ノ成規ニ違犯スルニ於テハ其商品ヲ沒收シ且三百
 リーダルノ罰金ニ處ス可シ。

○邑官ノ職權ニ關スル千七百九十年八月二十四日公布ノ法

律

第三條 邑官ノ指揮及ヒ監督ニ屬スル警察事項ハ左ノ如シ

第一 凡シ街衢、埠頭、廣場及ヒ公路ニ於テ通行ノ安寧、便利ニ關
 スル事即チ掃除、點燈、汚穢物ノ除去、崩壞ノ虞アル建物ノ取毀
 又ハ修繕、墜落シテ損害ヲ惹起スルノ虞アル物品ヲ家屋ノ窓

隔又ハ其他ノ所ニ載置スルヲ禁シ、通行人ヲ傷害シ或ハ汚穢
 ヲ若シハ有害ノ蒸氣ヲ發スル物品ヲ擲抛スルヲ禁ズル事

第二 街衢ニ於テ喧嘩及ヒ爭鬭ヲ爲シ公衆ノ集合スル場所ニ
 於テ騒擾ヲ醸シ夜中ニ嘯聚ヲ爲シ又ハ人民ノ安眠ヲ妨害ス
 ル響聲ヲ發スル等ノ如キ公衆ノ靖平ニ對スル總テノ犯罪ヲ
 制止シ及ヒ處罰スル事

第三 大市場、小市場、公祝祭場、劇場、觀場、珈琲店、寺院並ニ其他ノ
 公場ノ如キ多人數群集スル場所ニ於テ秩序ヲ保持スル事

第四 度量衡ノ具ヲ用ヒテ零賣スル物品ノ正否及ヒ販賣ニ供
 スル食品ノ真否ヲ監査スル事

第五 適宜ノ準備ヲ施シ及ヒ必要ノ救助ヲ分配シテ火災、人獸
 流行病ノ如キ災厄ヲ未發ニ防キ及ヒ之ヲ既發ニ制スル事但

人獸流行病ノ場合ニ於テハ州官及ヒ郡官ト協議スル者トス

第六 瘋癩白痴及ヒ猛獸ヲ放委スルヨリ生スル所ノ災害ヲ豫

防シ又ハ抑制スル事

第四條 觀場ハ邑官ノ外之ヲ允許スルコトヲ得ス

○邑官ノ職權ニ關スル千七百九十一年七月二十二日公布ノ

法律
要綱

第三十條 食品ノ代價表ハ各府又ハ各邑ニ於テ麵包及ヒ獸肉ニ

非サレバ假リニ之ヲ制定スルコトヲ得ス何レノ場合ト雖モ葡萄

酒及ヒ麥其他ノ穀物並ニ諸商品ノ代價表ヲ制定スルヲ許サス

若シ邑官ニ於テ之ヲ制定スルニ於テハ其職ヲ免ス可シ

第四十六條 各邑ノ警察裁判所及ヒ邑官ハ規則書ヲ制定スルノ

權ヲシテ然レモ邑官ハ議定書ノ名義ヲ以テ左ニ記列スル事項ニ

八獸流行病ノ場合ニ於テハ州官及ヒ郡官ト協議スル者トス
第六 瘋癲白痴及ヒ猛獸ヲ放委スルヨリ生スル所ノ災害ヲ豫
防シ又ハ抑制スル事

第四條 觀場ハ邑官ノ外之ヲ允許スルヲ得ス

○邑官ノ職權ニ關スル千七百九十一年七月二十二日公布ノ

法律要摘

第三十條 食品ノ代價表ハ各府又ハ各邑ニ於テ麵包及ヒ獸肉ニ
非サレハ假リニ之ヲ制定スルヲ得ス何レノ場合ト雖ヒ葡萄酒
酒及ヒ麥其他ノ穀物並ニ諸商品ノ代價表ヲ制定スルヲ許サス
若シ邑官ニ於テ之ヲ制定スルニ於テハ其職ヲ免ス可シ
第四十六條 各邑ノ警察裁判所及ヒ邑官ハ規則書ヲ制定スルノ
權ナシ然レヒ邑官ハ議定書（アレイバンク）ノ名義ヲ以テ左ニ記列スル事項ニ

付キ決定書ヲ制定スルヲ得可シ但其決定書ハ州官ニ於テ必
要ト認めル時ハ郡官ノ意見ヲ聽キタル上ニ於テ之ヲ改定スルヲ
得可シ

第一 千七百九十年八月二十四日公布ノ法律第十一章第三
條及ヒ第四條ニ於テ委任セラレタル事項ニ關シ地方適宜
ノ處置ヲ命令スル事

第二 更ニ警察ノ法律及ヒ規則ヲ公布シ又ハ管下人民ニ其
遵奉ヲ喚起スル事

○商品販賣ノ詐偽ヲ抑壓スル千八百五十一年二月二十七日
公布ノ法律（有害及ヒ腐敗ノ飲料）

○邑官ノ職權ニ關スル自由營業ヲ布告シタル千八百五十八
年七月二十四日ノ法律

第一條 個人ニ限ラズ賣肉ノ業ヲ營マント欲スル者ハ預メ其旨

ヲ警察廳ニ届出且其店ヲ開設スル町名番地ヲ申出ツ可シ

賣肉店ヲ他ニ移ス歟或ハ其持主ノ變ナル時モ亦更ニ届出ツル

ヲ要ス

第三條 凡ソ獸肉ハ警察規則ニ循ヒ屠獸場ト府内ニ輸入スル時

ト於テ之ヲ検査ス可シ但賣肉店及ヒ市場ニ於テ獸肉ノ良否

ト零賣ノ正否トヲ監査スルニ付キ警察廳ニ屬スル權利ト相觸

ルコト勿ル可シ

第五條 巴里府内ニ於テハ獸肉ノ呼賣ヲ爲スコト禁ム

第六條 巴里府ノ備食ヲ爲メ允許セラレタル食獸市場ニ於テハ

賣肉價額金ヲ納付テ賣買世話人ナル者ヲ置キ獸肉ヲ預リ及

ヒ其所有主ヨリ指示スル箇條ニ從ツテ雜賣ヲ爲シ又ハ其他ノ

方法ヲ以テ之ヲ販賣スル事ヲ取扱ハシム可シ但賣買世話人ニ
依頼スルト否トハ獸畜所有主ノ隨意トス

第五條 凡ソ獸畜ノ所有主ハ賣肉商ト均シク共同屠獸場ニ於テ

其獸畜ヲ屠殺セシメ該場ニ於テ其屠肉ヲ販賣セシメ又ハ入府

税ノ免除ヲ得テ之ヲ府外ニ運出セシメ或ハ府内ノ屠肉雜賣市

場ニ之ヲ運送セシムルノ權アリトス

第六條 府外ノ賣肉行商ハ府内ノ賣肉居商ト共ニ警察規則ヲ遵

守シ公立市場ニ於テ其屠肉ヲ販賣シ又ハ零賣スルコトヲ得可シ

第七條 賣肉店ノ監察事務及ヒ共同屠獸場ノ事務ニ關スル費用

ハ巴里府ニ於テ之ヲ負擔スル者トス

○賣肉營業ニ關スル千八百五十八年五月十六日ノ巴里府警

察法令

第一條 巴里府ニ於テ賣肉ノ業ヲ營マント欲スル者ハ千八百五十八年二月二十四日公布ノ敕書第二條ニ循ヒ豫メ其旨ヲ警察廳ニ届出且其店ヲ開設セント欲スル場所ヲ申出ツ可シ
 届書ヲ差出シタルヨリ十五日ノ期限内ニ警察廳ヨリ不認可ノ指令書ヲ送達セサル時ハ開店ヲ爲スヲ得可シ
 不認可ノ指令書ハ届出人ニ於テ後第二條ニ定メタル約款ヲ履行セサル時ニ非サレハ之ヲ下ストヲ得サル者トス
 不認可ノ指令書ヲ受領シタル届出人ニ於テ猶ホ其業ヲ營マント欲スル時ハ其店ニ必要ノ修築ヲ加ヘタル上ニテ更ニ届書ヲ警察廳ニ差出シ夫レヨリ十五日ノ期限内ニ警察廳ヨリ不認可ノ指令書ヲ送達セサル時ハ開店ヲ爲スヲ得可シ

第二條 賣肉店ノ開設ハ左ニ記列スル所ノ約款ニ從フ者トス

賣肉店ハ少クモ高サ二メートル五十センチメートル横幅三メートル五十センチメートル奥行四メートルニ造リ鉄柵ヲ以テ之ヲ閉鎖ス可シ
 風筒ヲ裝置シテ空氣ヲ流通セシム可シ
 地盤ハ公路ヨリモ高ク築キテ悉ク石ヲ敷キ詰メ之レニ坂溝ヲ設ク可シ
 壁ハ水液ノ浸入セサル物質ヲ以テ之ヲ塗り或ハ之ヲ覆フ可シ
 店内ニハ竈爐及ヒ烟筒ヲ裝置ス可ラス
 凡ソ寢室ハ店ト離隔スル歟或ハ直接ノ出入口ナキ壁ヲ以テ之レト區畫ス可シ
 店内ニ井戸及ヒ他ヨリ引用スル水ナキ時ハ半メートル立方ノ用水桶ヲ備付クテ毎日之レニ水ヲ汲入ル可シ

第三條 屠肉ノ定價ニ關スル千八百五十五年十月一日ノ警察法令ハ廢止ス
故ニ屠肉ノ價值ハ自今賣肉商ト需用者トノ間ニ於テ自由ニ之ヲ商定ス可シ

○斷案

破毀法院ハ左ニ記列スル事項ニ係ル邑官ノ決定書ヲ法ニ適シタル者ト認定セリ

第一 賣肉ノ業ヲ營マント欲スル者ニ預メ邑廳ヘ届出テ姓名ノ登記ヲ受ク可キノ義務ヲ命シタル決定書(千八百四十年)

第二 各賣肉店ニテ供用スル組板ノ高低幅員及ヒ位置ヲ限定シタル決定書(千八百三十一年)

第三 消費者ノ日用ニ充ツルニ足ル可キ分量ノ良肉ヲ絶ヘス

備ヘ置ク可キ旨ヲ賣肉商ニ命シタル決定書(千八百二十七年)

第四 販賣ニ供スル屠肉ヲ検査ニ附シテ檢印ヲ受ク可キノ義務ヲ賣肉商ニ命シタル決定書(千八百五十七年)

第五 賣肉商ニ於テ販賣ニ供スルヲ得可キ家畜ノ種類ヲ限定シタル決定書(千八百四十七年)

第六 左ニ開列スル所ノ諸件ヲ賣肉商ニ禁シタル決定書

一 古規則ニ循ヒ獸畜一頭ノ四分ノ一以下ナル量日ノ辯肉ヲ店內ニ貯蓄スル事(千八百三十二年)

二 警察官ノ検査ヲ受ケスシテ死獸ノ肉ヲ府内ニ輸入スル事(千八百三十七年)

三 許可ヲ受ケス自宅ニ於テ家畜ヲ屠殺スル事(千八百四十二年)

四 生皮脂肪及ヒ其他ノ肉屑ヲ店內ニ蓄藏スル事(千八百六
二月十日)

五 獸畜又ハ粗板ニ載置スル肉糞ノ血汁ヲ公路上ニ滴流ス
ル儘マニ差置ク事(千八百三十二年六月十六日)

第七 府外ノ賣肉商ニ屠肉ヲ呼賣シ又ハ市場外ニ於テ之ヲ販
賣スルコトヲ禁シタル決定書(千八百三十四年四月十九日)

第八 府外ヨリ輸入シタル賣肉ハ直チニ市場ニ送リテ検査ヲ
受ク可キコトヲ命シタル決定書(千八百四十一年五月十四日)

第九 肉屑ノ乾場ヲ府内ニ設置スルコトヲ禁シタル決定書(千八
百四十二年六月)

第十 休息ニ必要ナル時間ヲ除ク外ハ屠殺ス可キ家猪ヲ府内
ニ置クコトヲ禁シタル決定書(千八百二十一年)

第十一 病獸ヲ屠殺スルコトヲ禁シタル決定書(千八百四十三年)
邑官ハ府内ニ於テ屠肉ヲ運搬スルニ供用スル車ノ形体ヲ定メ及
ヒ屠肉肉屑及ヒ腸骨ヨリモ自他ノ物品ヲ右ノ車上ニ積載スルコ
トヲ禁スルヲ得可シ(千八百五十九年六月)
又破毀法院ハ左ニ記列スル事項ニ係ル邑官ノ規則書ヲ法ニ適セ
サル者ト認定セリ

第一 商業ヲ始ムルノ前ニ於テ營業免狀ヲ申受ケ又ハ行政官
廳ノ承認ヲ受ク可キノ義務ヲ賣肉商ニ命シタル規則書(千八
百四十二年八月)

第二 獸肉ヲ買得セント欲スル時ハ必ス其地方ノ賣肉店ニ就
キ之ヲ買収ス可キ旨ヲ管下住民ニ命シタル規則書(千八百八
四月十日)

第三條 開市時間中ハ市場外ニ於テ獸肉ヲ販賣ス可ラサル旨ヲ賣肉居商ニ命シタル規則書(千八百四十九年七月十二日)

第四條 日曜日及ヒ祭日ニ於テ店ヲ開キ及ヒ肉ヲ賣ルコト賣肉商ニ禁シタル規則書(千八百二十九年一月二十九日)

○食用トシテ馬肉ヲ販賣スル事ニ關スル千八百六十六年六月九日ノ巴里府警察法令

第一條 左ノ數條ニ定ムル所ノ約款ヲ守ルニ於テハ食用トシテ馬肉ヲ零賣スルコト得可シ

第二條 公衆ノ食用ニ供スル馬ハ警察廳ノ管内ニ設置スル特許屠獸場ニ於テスルニ非サレハ之ヲ屠殺スルコト得ス

第三條 獸皮剥取場又ハ前條ニ記シタル特許屠獸場ヨリモ他ノ屠獸場ヨリ出タル馬肉ハ巴里府内ハ勿論警察廳管内ノ田邑ニ

於テモ食用ノ爲メ之ヲ運搬シ或ハ販賣シ若クハ販賣ニ供スルコトヲ禁ス

第四條 食用ニ供スル馬ハ警察令ヨリ任命セラレタル獸醫即チ監吏ノ口前ニ於テスルニ非サレハ之ヲ屠殺スルコト得ス

第五條 食用ニ供スル馬ハ屠殺前ト分割後トニ於テ必ス之ヲ前條ニ記シタル監吏ノ検査ニ付ス可シ但屠馬ノ健康ノ有様ヲ十分ニ審査スルヲ得可キ爲メ其腦骸モ亦之ヲ検査ニ付スルヲ要ス

第六條 馬肉ハ警察廳ノ定メタル方法ニ循ヒ監吏ノ檢印ヲ受ケタル後ニ非サレハ屠獸場ヨリ之ヲ賣肉店ニ運出スルコト得ス

第七條 運搬ノ途中又ハ賣肉店ニ到着ノ後ニ於テ行フ所ノ再検査ヲ容易ニスルカ爲メニ馬肉ハ必ス二瓣若クハ四瓣ニ切ル可

シ但其四足ハ賣肉店ニ於テ剖割スル時ニ非サレハ之ヲ切去ル可ラス

第八條 左ニ記列スル馬肉ハ食料ニ供スルヲ得サル者トス

- 一 病死シタル馬又ハ負傷ノ爲メ發熱シタル時ニ屠リタル馬
- 二 或ル病病ニ罹リ又ハ体部ナルト蹄部ナルトヲ問ハス膿狀ノ腫物ヲ患フル馬

三 非常ニ疲瘦シタル馬

第九條 屠殺ス可キ馬ノ健否又ハ販賣ニ供スル肉ノ良否ニ係ル
 監吏ノ審査ニ對シテ不服ヲ唱フル者アル時ハ官署ヨリ鑒定人
 トシテ一名ノ獸醫ヲ派出シ所有主立會ノ上ニテ更ニ之ヲ鑒定
 セシム可シ而シテ若シ監吏ノ審査ニ誤謬アラサルヲ明確ナル
 於テハ其所有主ヲシテ鑒定費ヲ負擔セシム可シ

第十條 食用ニ不適當ナル馬並ニ其肉ハ直チニ之ヲオーベルビ
 リエールノ公舎ニ送致シ所有主ヲシテ其費用ヲ負擔セシム可
 シ

監吏ノ作リタル送致書ハ公舎ノ收票ヲ添ヘテ之ヲ所有主ニ示
 ス可シ

第十一條 檢印ヲ受ケタル馬肉ハ函車ニ積載シ直チニ之ヲ屠獸
 場ヨリ賣肉店ニ運搬ス可シ但其肉ノ全部ヲ包ムニ於テハ函車
 ニ積載セサルモ妨ケナシトス

第十二條 馬肉ヲ零賣スル店ニハ馬肉零賣所ト大書シタル招牌
 チ掲ケテ公衆ニ示ス可シ

第十三條 馬肉ハ之ヲ呼賣スルヲ禁ス
 又特許ヲ受ケタル馬肉零賣店ヲ除ク外ハ如何ナル場所ニ於テ

モ馬肉ヲ販賣スルヲ禁ス

第十四條 種質ヲ明示セスシテ燒炙或ハ變性シタル馬肉ヲ販賣シ又ハ詐偽ヲ以テ他獸ノ肉ニ馬肉ヲ混合シタル割烹店主及ヒ其他ノ食物商ハ其犯罪ノ種類ニ從ヒ刑法第四百二十三條又ハ千八百五十一年三月二十七日ノ法律ニ依準シ出訴セサル可ラス

○處分手續

第一項 地方ノ警察規則ヲ遵奉セスシテ新タニ開店シタル賣肉商アルノ報知ヲ受ケタル警察官ハ警察規則ニ違反スル旨ヲ速ニ本人ニ告諭スルヲ要ス而シテ其過失ノ重大ナル歟或ハ既ニ爲セシ所ノ告諭ニ從ハサル時ニ非サレハ調書ヲ作ラサル者トス

第二項 偽造ノ秤器ヲ使用シ又ハ腐敗シタル屠肉ヲ販賣シ又ハ定價表ノ設ケアルニ當リ定價以上ニ屠肉ヲ販賣シタル事ニ關シ賣肉商ニ對シテ告訴スル者アル時ハ速ニ其調書ヲ作り及ヒ其屠肉ヲ押收シテ之ヲ慈惠所ニ送付スルヲ要ス但其肉ヲ滅盡スルヲ要スル時ハ此限ニ在ラス

第三項 賣肉ノ營業上ニ行ハル、詐偽ハ千八百五十一年三月二十七日ノ法律ニ從ヒ獨リ違警罪ヲ組織スルニ止マラス尙ホ輕罪ヲ組織スルヲ忘ル可ラス

第四項 或ル場合ニ於テハ營業上ニ重大ノ過失アル賣肉商ノ行狀ヲ行政官ニ報告スルヲ良トス

○調書ノ文例

千八百何年、何月、何日、余官職ヲ記ス頃日新タニ何街、何番地ニ開店シタル賣肉商何某氏ハ何年、何月、何日附ノ警察規則ヲ遵奉セサル旨ノ報知ヲ得タルニ因リ速ニ其住所ニ到リテ本人ニ其携帶スルヲ要スル免許狀ヲ展示ス可キヲ要求シタルニ渠レ之ヲ所持セサル旨ヲ答ヘタリ仍テ余ハ本人ニ違警罪タルヲ告ケタリ是ニ由テ余ハ本書ヲ作り之ヲ朗讀シタル後、附屬吏員ト俱ニ之レニ姓名ヲ手署シタリ

(若シ千八百五十一年三月二十七日ノ法律ノ違犯ニ係ル時ハ其犯狀ヲ精細嚴密ニ檢證スルヲ要ス)

◎ 麵包製造所及ヒ麵包商原語「ブウランシェリ」、變造度量衡並ニ道路ノ部ヲ参照ス可シ

第一項 麵包商ノ業ヲ營ム者ハ其賦課セララル、所ノ營業稅ヲ納ムルノ外ニ尙ホ邑官ノ職權ヲ定メタル法律ニ依準シ制定スル所ノ地方警察規則ヲ遵奉セサル可ラス

第二項 凡ソ重ナル都府ニハ特ニ麵包商ノ營業ニ係ル條件ヲ定メタル敕書又ハ法令ノ設ケアリ故ニ之ヲ參照スルヲ要ス

第三項 法律上ニ於テハ麵包商ノ數ニ定限ヲ置カスト雖モ凡ソ此業ヲ營マント欲スル者ハ其地方ノ行政官ニ請フテ免許狀ヲ受ケサル可ラス故ニ實際上ニ於テハ自カラ定限アル者トス

第四項 麵包ノ價值ハ毎月二回官ニ於テ之ヲ定ム但奢

侈麵包ハ此限ニ在ラス

第五項 麵包ノ定價表ニ違背スルノ所爲ハ違警罪ヲ以テ之ヲ論スル者トス

第六項 不良質ノ麵包又ハ變造シタル麵包ヲ販賣シ或ハ其量目ヲ詐ハルノ所爲ハ輕罪ヲ以テ之ヲ論スル者トス

○刑法
要摘

第四百七十九條 左ニ記列スル者ハ十一法以上十五法以下ノ

罰金ニ處ス可シ

第六項 法律ニ從ツテ制定シ且公布シタル代價表ニ定メタル

ル價值以上ニ麵包ヲ販賣シタル麵包商

第四百八十條 左ニ記列スル者ニハ其景況ニ從ヒ五日以下ノ

禁錮ヲ宣告スルヲ得可シ

第三項 前條ノ第六項ニ定メタル場合ニ於ケル麵包商

第四百六十三條 (賣肉商ノ)

○邑官ノ職權ニ關スル千七百九十年八月二十四日ノ法律、千七百九十一年七月二十二日ノ法律及ヒ千八百三十七年七月十八日ノ法律 (賣肉商ノ)

○商品販賣ノ詐僞ヲ抑壓スル千八百五十一年二月二十七日公布ノ法律 (有害飲料ノ部ニ屬スル)

○敕書法令及ヒ一般規則中、麵包製造所ニ係ル諸條款ヲ廢止スル千八百六十三年六月二十二日ノ敕書

第一條 從前頒布ノ敕書法令及ヒ一般規則中左ニ記列スル事項ヲ目的トスル諸條款ハ千八百六十三年九月一日ヨリ之ヲ廢止

- 一 麵包製造人ノ員數ヲ制限スル事
 - 一 麵包製造所ヲ開設シ又ハ閉鎖スルニ付テハ豫メ官許ヲ受ク可キノ義務ヲ其製造人ニ命スル事
 - 一 穀物又ハ穀粉ヲ貯蓄シ及ヒ保證金若クハ抵當物ヲ納付ス可キノ義務ヲ麵包製造人ニ命スル事
 - 一 麵包ノ製造運搬若クハ販賣ヲ規定スル事
- 但販賣ニ供スル麵包ノ良否及ヒ其零賣ノ正否ニ關スル條款ハ此限ニ在ラス

第二條 塞納州ノ麵包製造所ノ資本金ニ關スル千八百五十三年十二月二十七日ノ敕書及ヒ千八百五十四年一月七日ノ敕書ハ之ヲ變更シテ此回ノ敕書ニ掲クル條項ト符合セシム可シ

○麵包販賣ニ關スル千八百六十七年十一月十四日ノ巴里府警察法令

第一條 警察廳ノ管内ニ於テ麵包ヲ販賣スルニハ其全塊ト片塊トヲ問ハス總テ本月本日ヨリ賣主ト買主トノ間ニ於テ證明シタル目方ヲ以テス可シ

第二條 麵包商ハ買主ヨリ要求ヲ受ケサル時ト雖モ其店ニ於テ販賣スル麵包ヲ渡スニ當リ必ス其目方ヲ秤ルヲ要ス
 需用者ノ家宅ニ配達スル麵包モ亦買主ノ要求アルニ當リ必ス其目方ヲ檢秤スルヲ要ス
 故ニ麵包商ハ常ニ必要ナル秤器ヲ其店內ニ備ヘ置キ且其麵包配達人ニモ亦之ヲ携帯セシメサル可ラス

第三條 前數條ニ違背スル罪ハ調書ヲ以テ其證ヲ取り當該裁判

所ニ送移スル爲メ之ヲ本廳ニ差出ス可シ

第四條 該法令ハ印刷シテ公布及ヒ貼附シ且警察使ヨリ直チニ之ヲ其所轄區内ノ各麵包商ニ送達ス可シ

第五條 府警察長各區及ヒ各邑ノ警察使並ニ其部下ニ屬スル諸吏員ハ各自關係ノ事ニ於テ該法令ノ執行ヲ保固ス可シ

○麵包店及ヒ菓子舖ニ於テ使用スル薪木ニ係ル千八百七十七年九月十五日ノ巴里府警察法令要摘

第一條 麵包店及ヒ菓子舖ニ於テハ麵包及ヒ菓子ヲ製造スル爲メニペンキ等ヲ塗リタル古木ヲ焚用スルヲ嚴禁ス

第二條 該法令ニ違背スル罪ハ證書又ハ報告書ヲ以テ其證ヲ取ル可シ

○斷案

千八百六十三年六月二十二日ノ敕書ハ千七百九十年ノ法律ト千七百九十一年ノ法律トニ於テ邑官ニ與ヘタル麵包ノ代價ヲ規定スルノ權利ヲ該官ニ奪ハサル者ナリ(千八百六十八年五月十一日破毀法院)

麵包ノ代價ヲ規定シタル邑官ノ決定書ハ一時ノ決定書ナレハ豫メ州長ノ認許ヲ受ケスシテ直チニ義務ノ力ヲ得ル者トス(千八百六十九年十一月二十九日同上)

麵包ヲ販賣スル時ニ其目方ヲ秤ル可キヲ命シテ零賣ノ正實ヲ保固スル邑官ノ決定書ハ麵包商業ノ自由ニ係ル千八百六十三年六月二十二日ノ敕書ニ抵觸セサル者ナリ故ニ裁判官ハ右ノ決定書ノ執行ヲ買主ノ要求ニ屬シテ決定書ニ許サ、ル所ノ辨解ヲ允スヲ得ス(千八百六十四年十一月十六日同上)

麵包商業ノ自由ニ係ル千八百六十三年六月二十二日ノ敕書頒布

ノ後ハ麵包ノ良否ト目方ノ正否トニ關スル警察規則ニ非サレハ
邑官ニ於テ之ヲ制定スルコトヲ得ス穀粉ヲ貯蓄ス可キヲ麵包商
ニ命シタル以前頒布ノ規則書ノ如キハ素ヨリ廢棄ニ屬スル者ト
ス(千八百六十八年一
月二十五日同上)

店頭又ハ公路上ニ陳列セスト雖モ消費者ノ求メニ應スル爲メ家
屋ノ一部ニ置キタル麵包ハ則チ販賣ニ供シタル者トス(千八百六
月十日
同上)

需用者ノ要求ナキ時ト雖モ各種ノ麵包ノ目方ヲ秤ル可キヲ麵
包商ニ命シタル邑官ノ決定書ハ通常麵包ト菓子麵包トヲ問ハス
之ヲ適用スル者トス(千八百六十四年
七月八日同上)

邑官ハ商品ノ良否及ヒ其零賣ノ正否ニ係ル事ニ非サレハ決定書
ヲ制定スルノ權ナシ故ニ鑑札又ハ被雇證ヲ携帯スル職工及ヒ雇

丁ニ非サレハ麵包店ニ雇ヒ入レラル、丁ヲ得サル旨ヲ定メタル
邑官ノ決定書ハ工藝ノ自由ニ反スル者ナリ(千八百六十四年
二月十九日同上)

刑ノ加重ヲ禁シタル治罪法第三百六十五條ハ違警罪ニ係ル事件
ニ適用スルヲ得サル者ナリ故ニ其營業ニ關シ數廉ノ違警罪ヲ犯
シタル麵包商ニハ假令ヒ同所及ヒ同時ニ於テ同一ノ證告書ヲ以
テ檢證シタル時ト雖モ其一廉コトニ罰金ヲ言渡スヲ要ス(千八百
年一月二十
七日同上)

店內ニ麵包ヲ貯藏シナカラ定價ニ之ヲ販賣スルヲ否ミタル麵包
商ハ刑法第四百七十九條ニ定メタル刑ニ處ス可キ者トス(千八百
年五月十
二日同上)

一、キログラムノ價ヲ以テ一、キログラムニ足ラサル麵包ヲ販
賣シタルハ即チ定價以上ニ之ヲ販賣シタル者トス(千八百四十二
年三月五日同

上

地方ノ警察規則ニ定メタル目方ナキ麵包ヲ販賣ニ供スルノ所爲
ハ刑法第四百七十一條第十五項ニ照シテ處斷ス可キ者トス決シ
テ之ヲ其第四百七十九條第六項ニ循ヒ處斷ス可ラス(千八百三十
九年二月二十
同十八日)

定價以下ニ麵包ヲ販賣スルヲ麵包商ニ禁シタル邑官ノ規則書
ハ義務ノ力ヲ有セサル者トス(千八百五十二年
三月十一日同上)
麵包ノ代價ヲ定メタル決定書ハ太鼓ヲ打チ鳴ラシテ公布スルニ
止マリシ時ト雖モ法ニ適シタル公布ヲ爲シタル者トス故ニ麵包
商ヲシテ之ヲ守ラシムルニハ必スシモ代價表ノ印本ヲ麵包店ニ
貼布シ且其印本ヲ麵包商ニ交付スルニ及ハス(千八百三十四年十
一月二十五日同上)

○處分手續

第一項 警察官ハ麵包商ニ於テ其營業免許狀ヲ受ケタ
ルヲ保固ス可シ

第二項 警察官ハ麵包商ニ於テ其營業中地方ノ警察規
則ヲ綿密ニ遵守スルヲ保固ス可シ

第三項 警察官ハ麵包商ニ於テ其麵包ヲ賣渡ス毎トニ
綿密ニ之ヲ秤リ且變造セス及ヒ他物ヲ混合セサル良
質ノ麵包ヲ零賣スルヲ保固ス可シ

第四項 前項ノ事件ニ就テハ最モ嚴重ニ之ヲ取締ルヲ
必要トス

第五項 右ニ掲ケタル輕罪ヲ檢證スルニ付テハ住所ヲ
有セサル麵包商ニ非サレハ之ヲ繫囚スルヲ得ス

第六項 營業中ニ重大ナル過失ヲ爲シタル麵包商アル

時ハ之ヲ行政官ニ報告ス可シ

○調書ノ文例

千八百何年、何月、何日、余官職、住所、姓名、官職法律及ヒ規則ノ施行ヲ保固スルカ爲メニ所轄區内又ハ邑内ノ麵包店ヲ巡廻シ附屬吏員ト共ニ何街、何番地、麵包商何某氏ノ店內ニ立入り本人ニ於テ所持スルヲ要スル營業免狀ヲ展示ス可キ旨ヲ要求シタルニ渠レ左ノ如ク答述セリ其答ヲ詳記ス

(又ハ余本人ニ其店內ニ穀粉ヲ貯蓄スル旨ヲ辯明ス可キ旨ヲ要求セリ)

(又ハ余本人ニ麵包ノ定價ニ關スル最終ノ決定書ヲ其店頭ニ貼附セサルヲ認メシメタリ)

(又ハ余本人ニ秤器ノ一方ノ底下ニ鉛片ヲ付シ偽量ヲ以テ麵包ヲ販

賣スルヲ認メシメタリ)

(又ハ余本人ニ其麵包ノ不良質ナル事或ハ其變造品ナル事若クハ他物ヲ混合シタル物ナルヲ認メシメタリ)

(罪狀ヲ明細ニ記載ス)

仍テ余ハ本人ニ違警罪タルヲ告ケタリ

(千八百五十一年三月二十七日ノ法律ニ掲ケタル場合ニ於テハ其麵包ヲ押收シ犯人ノ面前ニ於テ之レニ封印ヲ爲シ及ヒ紙票ヲ附スル者トス)

是ニ由テ余ハ本書ヲ作り之ヲ朗讀シタル後ヲ附屬吏員ト俱ニ之レニ姓名ヲ手署シタリ

◎古本商原語「ブウ」

出版ノ部ヲ參照ス可シ

第一項 古本商ニ二種アリ居店古本商及ヒ露店古本商即チ是ナリ

第二項 居店古本商ハ書籍商ニ准セラル故ニ政府ノ免許狀ヲ受クルヲ要ス然レモ露店古本商ノ如キハ唯ニ地方廳ノ允許書（ペレミシオン）ヲ受クルヲ以テ足レリトス

○印刷所及ヒ書肆ニ關スル規則ヲ定メタル千八百十年二月五日ノ敕書要

第三十九條 著述者及ヒ其寡婦ハ畢生間并ニ其子ハ二十年間版權ヲ保有スルノ權アル可シ但婚姻ノ契約ニ於テ寡婦ニ其權利ヲ與ヘサリシ時ハ此限ニ在ラス

○書肆ニ關スル千八百十二年七月十一日ノ法律第一條ノ第三項原文ナ

○出版ノ自由ニ關スル千八百十四年十月二十一日ノ法律要

第十一條 何人ニ限ラス國王ノ免許ヲ受ケス及ヒ宣誓ヲ爲サ、ル者ハ印刷人及ヒ書籍商ノ業ヲ營ムコトヲ得ス

○出版ニ關スル千八百五十二年二月十七日ノ敕書要

第廿四條 何人ニ限ラス千八百十四年十月二十一日ノ法律第十一條ニ定メタル免許狀ヲ受ケスシテ書籍商ノ業ヲ營ミタル者ハ一月以上二年以下ノ禁錮ト百法以上二千法以下ノ罰金トニ處シ且閉店ヲ命ス可シ

○古本商ニ關スル千八百三十九年九月十九日達ノ警察法令
第一條 警察廳管内ノ古本商露店書籍商及ヒ其他總テ書籍ノ商業ニ従事スル者ニ於テ父母後見人又ハ主人ノ承諾書ヲ携帯セサル幼兒學生雇人及ヒ婢僕ヨリ書籍類ヲ買取ルコトヲ禁ス

第二條 前條ニ記シタル各商人ニ於テ住所姓名不分明ナル各人ヨリ書籍類ヲ買取ルコトヲ禁ス但其各人ニ於テ慥ナル證人ヲ立ツル時ハ此限ニ在ラス

第三條 凡ソ古本商露店書籍商及ヒ其他總テ書籍ノ商業ニ從事スル者ハ住所知レヌ且疑ハシキ者ヨリ賣却スル爲メニ示ス所ノ書籍ヲ要管シテ二十四時間内ニ其届書ト共ニ之ヲ其區ノ警察使又ハ其邑ノ邑長ニ差出ス可シ

第四條 前數條ニ記シタル古本商露店書籍商及ヒ其他總テ書籍ノ商業ニ從事スル者ハ該法令公布ノ日ヨリ自己ノ姓名身分ヲ記シタル帳簿二冊ヲ設備シ毎日之レニ利白ヲ置カス塗抹ヲ爲サス連綴シテ其賣買交換シタル書籍ノ題號ト其賣却者及ヒ其證人ノ住所姓名身分トヲ記載ス可シ

第五條 凡ソ古本商露店書籍商及ヒ其他總テ新古ノ書籍ヲ賣買スルノ職業ヲ營ム者ハ前條ニ於テ命セラレタル帳簿ヲ其居住スル區ノ警察使又ハ邑ノ邑長ニ差出シテ其首葉及ヒ尾葉ニ番號及ヒ横線ヲ受ケ且毎月少クモ一回之ヲ右ノ警察使及ヒ邑長ニ差出シテ檢署及ヒ横線ヲ受ク可シ此成規ニ違背スル者ハ相當ノ刑ニ處セラレ可シ

○斷案

古物ヲ賣買スル各商人ニ其物品ヲ記載スル爲メノ取締帳ヲ設備ス可キコトヲ命シタル千七百八十年ノ規則第一條及ヒ第二條ハ常ニ効力ヲ保有スル者ナリ故ニ古本ヲ賣買スル所ノ書籍商及ヒ古本商ニ之ヲ適用スルヲ正當トス(千八百三十八年三月八日巴里上等裁判所)

○處分手續

第一項 警察官ハ新タニ開店シタル居店古本商アルノ
 報知ヲ受クルニ當リ其商人ヲシテ政府ノ允許狀ヲ展
 示セシムルヲ要ス
 又警察官ハ居店古本商ノ販賣ニ供スル書籍印本及ヒ
 出版物ヲ検査シテ之ヲ押収スルヲ得
 第二項 警察官ハ露店古本商ヲシテ其地方廳ヨリ受ケ
 タル允許書ヲ展示セシムルヲ要ス
 又警察官ハ露店古本商ノ販賣ニ供シ若クハ所持スル
 書籍印本及ヒ出版物ヲ検査スルヲ得
 第三項 居店古本商ニ於テ免許狀ヲ所持セス及ヒ露店
 古本商ニ於テ允許書ヲ所持セサル時ハ其商品ヲ押収
 スルヲ得

第四項 免許狀ヲ受ケスシテ居店古本商ノ業ヲ營ム者
 アル時ハ直チニ閉店ヲ命シテ其鍵ヲ取上ケ且其戸ニ
 封印ヲ附ス可シ
 第五項 允許書ヲ受ケスシテ露店古本商ノ業ヲ營ム者
 アル時ハ其商品ヲ押収シテ箱若クハ袋ニ入レ封印ヲ
 附シテ之ヲ裁判所ノ書記局ニ送致ス可シ
 第六項 前數項ノ場合ニ於テハ必ス常ニ調書ヲ作ル可
 シ
 第七項 管外ノ露店古本商ニシテ違警罪ヲ犯シタル時
 ハ之ヲ逮捕スルヲ得可シ
 ○調書ノ文例
 千八百何年、何月、何日、余官吏ノ姓名、官職、住所ヲ記ス何某ナル者何所ニ

於テ古本店ヲ開設シタルノ報知ヲ受ケタルニ因リ其店ニ到リテ免許狀ヲ展示ス可キ旨ヲ命シタルニ渠レ左ノ如ク答述セリ其答ヲ記

右何某氏ハ免許狀ヲ所持セサルニ依リ余渠レニ違警罪タル旨ヲ告ケテ其商店ノ戸ニ封印ヲ附シ且裁判所ノ書記局ニ送致スルカ爲メニ其鍵ヲ取上ケタリ是ニ由テ余ハ調書ヲ作り之ヲ朗讀シタル後テ被告人何某氏及ヒ附屬吏員ト俱ニ之レニ姓名ヲ手署シタリ

(若シ露店古本商ニ關スル時ハ左ノ如ク書ス可シ)

余某所巡回ノ際ニ何某氏ノ允許書ヲ所持セスシテ古本類ヲ公路ニ展列販賣スルヲ認メタリ故ニ余ハ當該裁判所ノ書記局ニ送致スルカ爲メ其商品ヲ押収シテ箱中ニ

入レ之レニ封印及ヒ紙箋ヲ附シタリ

◎古物商原語「プロカ」

古着商ノ部ヲ見ル可シ

◎嘈聲及ヒ噪鬧原語「ブリユイ、エー、タ、パァジュ」

小路ノ部ヲ參照ス可シ

第一項 喧噪ナル職業又ハ鎚ヲ使用スル職業ヨリ發スル夜間ノ嘈聲ト公路上又ハ多人數雜居スル家屋内ニテ爲ス喧嘩、爭論及ヒ嘲笑ヨリ發スル晝間ノ噪鬧ト公舍ノ閉鎖時限後ニ爲ス夜間ノ嘈聲又ハ噪鬧トヲ區別スルヲ要ス

第二項 何レノ場合ニ於テモ此等ノ所爲ハ違警罪ヲ組織スルニ止マル者トス

第三項 鎚ヲ使用スル職業ヨリ發スル嘈聲及ヒ噪鬧ハ其使用ノ停止時限ヲ定メタル特別規則ノ存在スル時ニ非サレハ違警罪ヲ組織セサル者トス

○刑法

第四百七十九條 左ニ記列スル者ハ十一法以上十五法以下ノ罰金ニ處ス可シ

第八 人民ノ靜寧ヲ妨害スル誹毀ノ嘈聲又ハ噪鬧及ヒ夜間ノ嘈聲又ハ噪鬧ヲ爲シタル正犯又ハ從犯

第四百八十條 左ニ記列スル者ニハ其景況ニ從ヒ五日以下ノ禁錮ヲ宣告スルヲ得可シ

第五 誹毀又ハ夜間ノ嘈聲又ハ噪鬧ヲ爲シタル正犯又ハ從犯

○斷案

(正犯及ヒ從犯) 嘈聲又ハ噪鬧ノ正犯トハ自身ニ之ヲ爲シタル者ヲ云ヒ又其從犯トハ現ニ嘈聲及ヒ噪鬧ニ加入シタル者ノミナラス尙ホ之ヲ容易ナラシメタル者ヲ云フ(千八百五十八年十二月二十四日破毀法院) 然レモ喧噪ニ加入セサルノミナラス却テ之ヲ叱噴シ官吏ノ干涉セサル以前ニ退去シタル者ハ誹毀又ハ夜間ノ噪鬧ノ從犯ト看做スヲ得ス(千八百三十八年十一月三十日同上)

犯罪ヲ組成スルニハ必スシモ嘈聲又ハ噪鬧ニ於テ誹毀ト夜間トノ二個ノ摸樣ヲ具備スルヲ要セス唯タ此摸樣中ノ一ヲ具フルヲ以テ足レリトス(千八百四十八年八月二十六日同上)

(嘈聲及ヒ噪鬧ノ種類) 法律上ニ於テハ種類ノ如何ト方法ノ如何トヲ問ハス一般ニ總テノ嘈聲及ヒ噪鬧ヲ包含ス故ニ鳴物ヲ鳴ラ

シ門戸窓扉器什ヲ敲キ哄喊叫嘯等ヲ以テ爲ス所ノ嘈聲又ハ噪聞
ハ總テ法律ノ問フ所トス

凡ソ喧噪ハ古來ノ習慣ナリシ事又ハ妨害ヲ惹起セサリシ事或ハ
纒ニ五分時間繼續シタルノミナリシ事ヲ口實トシテ免除スルコ
ト得サル者トス(千八百四十二年四月二十三日同上)

(夜間ノ噪聞) 夜間ノ嘈聲又ハ噪聞トハ日出前及ヒ日没後ニ爲ス
所ノモノヲ云フ故ニ警察規則ニ於テ定メタル公舎ノ閉鎖時限前
ニ行フタルモノト雖モ夜間ノ嘈聲又ハ噪聞ヲ以テ之ヲ論ス(千八百
十四年十一月十六日同上)

嘈聲又ハ噪聞ノ違警罪ヲ組成スルニハ必ス其犯人ノ故意ニ出ツ
ルヲ要ス故ニ尿尿溝ノ水素瓦斯ヨリ偶然發スル所ノ嘈聲及ヒ飼
主ノ嗾唆ヲ受ケヌシテ夜間ニ爲ス所ノ畜犬ノ吼吠ノ如キハ刑法

第四百七十九條第八項ノ違警罪ヲ組織セサル者トス

凡ソ一定ノ成規ニ循ヒ營ム所ノ職業例セハ八月二十二日ノ午前

第四時マテニ票札ノ掛替ヲ爲ス大工ノ工事夜間ニノコトヲ擅古聿ヲ製造

スルニ必要ナル椰子ヲ調合スル擅古聿製造人ノ仕事及ヒ印刷ヲ

爲ス印刷人ノ仕事ヨリ生スル嘈聲又ハ噪聞モ亦刑法第四百七十

九條ノ第八項ニ觸レサル者トス(千八百六十五年三月三日同上)

然レモ夜間ニ仕事ヲ爲ス職人ニ於テ其職業ニ必要ナラサル嘈聲

ヲ發シタル時ハ之ヲ刑法第四百七十九條ニ問フコト得可シ故ニ

破毀法院ハ左ニ記列スル各人ニ刑法第四百七十九條ヲ適用ス可
キコトヲ裁定セリ

第一 夜間、麵粉ヲ煉ルノ時ニ於テ公衆ノ靜寧ヲ妨害ス可キ叫

聲ヲ發シタル麵包製造所ノ職人(千八百二十八年十一月二十一日)

第二 午後第十一時十五分後府内ニ入ルノ時ニ於テ喇叭ヲ吹
キ鳴ラシタル運送馬車ノ馬丁(千八百六十四年)

(家屋内ノ嘈聲) 家屋ノ内部ニ於テ爲セシ所ノ嘈聲又ハ噪鬧ト雖
モ其外部ニ漏レ聞ヘタル時ハ刑法第四百七十九條第八項ノ違警
罪タルヲ免カレサル者トス(千八百六十三年五月)隣人又ハ行人ノ注
意ヲ惹起シテ公衆ノ靜寧ヲ妨害スル家屋内ノ談話モ亦同シ(千八
百六十四年同月)

然レモ家屋内ニテ踏舞ヲ爲シ其嘈聲ノ家屋外ニ漏レタルノ所爲
ハ刑法第四百七十九條第八項ノ違警罪ヲ組織セス(千八百五十九
年同月)午後第十一時ヨリ全十五分ニ至ルマテ窓牖ヲ悉ク開ケ放シ
「トロンボンヌ」及ヒ「ピストン」(器ノ名)ヲ以テ家屋内ニ音樂ヲ奏シタ
ルノ所爲モ亦同シ(千八百七十年上)

(公路上ノ放歌叫聲音曲) 左ニ記列スル者ニハ刑法第四百七十九
條ノ第八項ヲ適用ス可キモノトス

第一 公路上ニ於テ高聲ニ放歌シ又ハ叫聲ヲ發シタル者(千八
百九十二年一月三)

第二 高聲ニ放歌シ其聲ヲ遠クマテ達セシメタル者(千八百七
五年八月)

第三 調書ニ於テ叫聲ト看做シタル放歌ヲ爲シタル者(千八百
九十八年同月)

第四 午後第十一時ヨリ全第十二時迄ノ間ニ公園地ニ於テ太
鼓ヲ打チタル耕夫(千八百九十九年)

第五 午後第十一時ヨリ全第十二時マテノ間ニ狩獵喇叭ヲ吹
キ鳴ラシタル者(千八百六十年上)

(嘈聲又ハ噪鬧ノ違警罪ヲ組成スルニハ公衆ノ靜寧ヲ妨害シタルノ證左アルヲ必要トスル歟) 破毀法院ハ誹毀又ハ夜間ノ嘈聲又ハ噪鬧ニ於テ住民ノ靜寧ヲ妨害シタル適法ノ推測アルノミヲ以テ足レリト爲スヲ認メ其被告人ニ許スニ其爲セシ噪鬧又ハ嘈聲ノ住民ノ靜寧ヲ妨害セサリシノ證ヲ立ツルヲ以テセリ(千八百七十六年三月十七日同上)

故ニ違警罪裁判所ハ第一ニ誹毀又ハ夜間ノ嘈聲又ハ噪鬧ヲ爲シタルノ證アル被告人ニ於テ住民ノ靜寧ヲ妨害セサリシノ證ヲ立テサルニ當リ之ヲ刑法第四百七十九條ノ刑ニ處セサル可ラス第二ニ被告人ニ於テ住民ノ靜寧ヲ妨害セサリシノ證ヲ立テシテ請求スル時ハ之ヲ允許セサル可ラス第三ニ住民ノ靜寧ヲ妨害シタル適法ノ推測アル時ト雖モ其裁判言渡書ニ住民ノ靜寧ヲ妨害

シタル旨ヲ記載セサルヲ得可シ(アランシユ氏著違警罪論)

夜間又ハ誹毀ノ噪鬧ヲナスカ爲メニ自己ノ房室ノ窓牖ヲ使用スルヲ承允シタルノ所爲ハ從犯ヲ組織ス(千八百五十年八月二十三日破毀法院) 自己ノ店內ニ行ハレタル夜間ノ嘈聲又ハ噪鬧ヲ制止セサリシ居酒店主ハ從犯ト看做シテ之ヲ處刑スルヲ要ス(千八百五十八年七月二十五日同上) 數名ノ者互ニ相罵リ之カ爲メニ多人數ノ群集ヲ惹起シ公ケノ靜寧ヲ妨害シタルノ所爲ハ刑法第四百七十九條ノ第八項ニ記シタル違警罪ヲ組成ス故ニ違警罪裁判官ハ被告人ノ吐露シタル言語ヲ其調書ニ明記セサルノ理由ヲ以テ之レニ無罪ノ言渡ヲ爲スヲ得ス(千八百五十八年四月四日同上)

違警罪裁判所ハ嘈聲又ハ噪鬧ヲ爲シタル事及ヒ住民ノ靜寧ヲ妨害シタル事ヲ明記セサルノ調書ニ對シテ夜間ノ單純ナル放歌ハ

假令ヒ如何程高聲ナルモ刑法第四百七十九條ニ制禁シタル嘈聲
コアラサルヲ決スルヲ得ル者トス(千八百七十六年四)

(起訴) 檢察官ハ告訴アルヲ俟タヌシテ夜間又ハ誹毀ノ噪鬧ノ正
犯或ハ從犯ヲ公訴スルヲ得ルモノトス(千八百三十五年)

違警罪裁判所ハ犯罪ノ證據明確ナルニ當リ其犯人幼年ニシテ平
素ノ品行善良ナルヲ口實ト爲シ之レニ裁判費用ノミヲ言渡ス
ニ限ルヲ得ス(千八百二十一年十一)

禁錮ノ刑ヲ言渡スト否トハ裁判官ノ隨意ナリトス然レモ罰金ハ
必ス常ニ之ヲ言渡サ、ル可ラス(千八百二十一年十一)

故ニ違警罪裁判所ハ被告人ニ禁錮ノ刑ノミヲ言渡シテ之レニ罰
金ヲ言渡サ、ルヲ得ス(千八百九十五年十二)

違警ノ刑ハ各犯人ニ言渡ス者トス故ニ數名相合シテ一個ノ違警

罪ヲ犯シタル時ハ其各犯人ニ罰金ヲ言渡スヲ要ス決シテ各犯人
ニ一個ノ罰金ノミヲ言渡スニ限ルヲ得ス(千八百七十六年)

○處分手續

第一項 喧噪ナル職業又ハ鎚ヲ使用スル職業ニ就テハ
何レノ都府ニ於テモ警察規則ヲ以テ其作業ヲ始ムル
ヲ得可キ時限ト之ヲ終ハル可キ時限トヲ定メタリ

第二項 此類ノ違警罪ハ口述ノ告訴ノミニ依リ之ヲ檢
證スルヲ得然レモ深ク注意ヲ加フルヲ必要トス

第三項 晝間ナリト雖モ公路上ニ爲ス所ノ住民ヲ驚感
ス可キ噪鬧ハ違警罪ヲ組織ス故ニ之ヲ抑制スルヲ要
ス

第四項 嘈聲ヲ停止シテ退散ス可キ旨ヲ命スルト雖モ

之レニ從ハサル時ハ其犯人ノ住所、姓名、職業ヲ取糺ス
カ爲メ之ヲ逮捕スルヲ要ス

第五項 夜中公舎ノ閉鎖時限後ニ噪鬧ノ行ハレタル時
モ亦其犯人ノ身分ヲ取糺スカ爲メ之ヲ逮捕スルヲ要
ス

○調書ノ文例

千八百何年、何月、何日、余官吏ノ姓名、官職、住所ヲ記ス何街、何番地、何職、何
某氏ノ店ニ於テ定時限前又ハ定時限後ニ住民ノ安眠ヲ
妨害スル喧噪ノ作業ヲ爲ス旨口述ノ告訴ヲ受クルヲ再
三ニ及フヲ以テ之レニ説諭ヲ加ヘタリト雖モ更ニ服從
ノ模様ナク依然其作業ヲ繼續スルヲ認メタリ故ニ余ハ
右何某氏ニ其所爲タル何年、何月、何日達ノ決定書ニ定メ

タル違警罪タルヲ告ケタリ

是ニ由テ余ハ本書ヲ作り之ヲ朗讀シタル後、附屬吏員
ト共ニ之レニ姓名ヲ手署シタリ

(若シ公路上ニ於テスル爭論又ハ嘲言ニ關スル時ハ左ノ如ク書ス可

余、何處巡回ノ際ニ嘈聲ヲ發シ互ニ爭論ヲ爲ス者アリテ
之カ爲メニ多人數ノ群集雜沓スルヲ認メタリ仍テ余ハ
肚帶ヲ着テ現場ニ臨ミテ噪鬧ヲ止メ退散ス可キ旨ヲ其
爭論者ニ説諭シタレモ更ニ服從スルノ模様ナキニ因リ
已ムヲ得ス之ヲ余カ詰所ニ拘引シテ其住所、姓名等ヲ
訊問シタルニ渠レ左ノ如ク答述セリ各爭論者ノ姓名、年齢、
職業、住所ヲ記ス可シ
余ハ爭論者ノ申述ノ正實ナルヲ確認シタル後、其違

警罪タルヲ告ケテ之ヲ放釋セリ

(若シ其者官吏ニ對シ暴行ヲ以テ抗拒スル時ハ輕罪ヲ組織ス故ニ之ヲ拘留スルヲ得)

(又夜間ノ嘈聲及ヒ噪鬧ニ關スル時ニシテ其犯人ノ姓名知レサル歟或ハ其沈醉者タル時ハ右ト均シク之ヲ拘留スルヲ得然レモ翌日ニ至リ其住所姓名ヲ確認シタル時ハ直チニ之ヲ放釋セサル可ラス)
(嘲謔ニ加ハリ退散ノ命令ヲ受クルモ其場ヲ去ラサル各人ハ假令ヒ靜謐ニ爲シ居タル時ト雖モ從犯ト見做シテ之ヲ逮捕スルヲ要ス)

◎雇人口入所原語「ビユロイド」アラスマン

第一項 雇人口入所ハ如何ナル名義ヲ以テスルモ及ヒ如何ナル職業ノ爲メナリモ邑官ヨリ特別免許狀ヲ請ヒ受ケスシテ之ヲ開設スルヲ得サル者トス

第二項 雇人口入所ノ管理者ハ其免許狀ニ於テ命セラレタル條件ヲ遵守スルヲ要ス

第三項 雇人口入所ハ警察官ノ監察ヲ受クル者トス

第四項 雇人口入所ニ關シ地方官ノ制定シタル警察規則ニ違背スル罪ハ至重ナル違警ノ刑ヲ以テ之ヲ罰スルヲ得ル者トス

第五項 懲治ノ刑ニ處セラレタル雇人口入所ノ管理者ヨリハ其免許狀ヲ引上クルヲ得ル者トス

○刑法要綱

第四百七十一條要綱 左ニ記列スル者ハ一法以上五法以下ノ罰金ニ處ス可シ

第五 小路ニ關スル規則又ハ決定書ヲ執行スルヲ怠リ或

ハ否拒シ又ハ崩壊セントスル建物ヲ修繕シ或ハ取毀ツ可
キ行政官廳ノ催促ニ従フコト怠リ或ハ否拒シタル者

第十五 法律ニ循ヒ行政官廳ノ設ケタル規則ニ違背シタル
者并ニ千七百九十年八月十六日決定二十四日公布ノ法律
第十一章ノ第三條第四條及ヒ千七百九十一年七月十九日
決定二十二日公布ノ法律第一章第四十六條ニ據リ邑廳ヨ
リ公布シタル規則又ハ決定書ニ従ハサル者

○民法要綱

第一千三百八十二條 何事ニ因ラズ人ニ損害ヲ加フルノ所行ヲ爲
シタル者ハ其償ヲ爲サ、ル可ラズ

第一千三百八十三條 何人ニ限ラス自己ノ所行ニ因リ人ニ加ヘタ
ル損害ヲ償フ可キノ義務アルノミナラス猶ホ自己ノ懈怠又ハ

疎忽ニ因リ人ニ加ヘタル損害モ亦之ヲ償フ可キノ義務アリ

第一千三百八十四條 何人ニ限ラス自己ノ所行ニ因リ人ニ加ヘタ
ル損害ヲ償フ可キノ義務アルノミナラス猶ホ自己ノ擔當ス可
キ者又ハ自己ノ監守スル物ノ所業ニ因リ人ニ加ヘタル損害モ
亦之ヲ償フ可キノ義務アリ

父又夫ノ死去シタル後ハ母ニ於テ其同居スル幼年ノ子ノ人ニ
加ヘタル損害ヲ償フ可シ

雇主及ヒ任用者ハ其雇人及ヒ被任用者ノ其使用セラレタル職
務ニ於テ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可シ

教師及ヒ工作者ハ其生徒及ヒ職弟子ノ己レノ監視ヲ受クル時
間ニ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可シ

父及ヒ母又ハ教師及ヒ工作者ハ其子又ハ弟子ノ人ニ損害ヲ加

ハタルノ所行ヲ防止スルヲ能ハサリシノ證ヲ立ツルニ非サレ
ハ右ニ記シタル責任ヲ免ルハコトヲ得ス

第一千三百八十六條 建造物ノ所有者ハ之ヲ修理スルヲ怠リタ
ルニ因リ又ハ之ヲ建造スル法ノ不良ナルニ因リ其建造物ノ崩
潰シテ人ニ加ヘタル損害ノ責ニ任ス可シ

○雇人口入所ニ關スル千八百五十二年三月二十五日ノ敕書
第一條 自今ハ何人ニ限ラズ如何ナル名義ヲ以テスルモ及ヒ如
何ナル職業、雇口若シハ任務ノ爲メナリトモ邑官ヨリ特別免許狀
ヲ請ヒ受ケスシテ雇人口入所ヲ開設スルヲ得ス但此免許狀
ハ品行方正ナル者ニ非シレハ下付スルヲ得サル者トス
現今雇人口入所ヲ所有スル者ハ三箇月ノ期限内ニ右ノ免許狀
ヲ請ヒ受ク可シ

第二條 免許願書ニハ願人ニ於テ其職業ヲ行フニ付キ守ラント
欲スル所ノ約款ヲ記載ス可シ

雇人口入營業人ハ右ノ約款及ヒ第三條ニ循ヒ制定スル所ノ諸
規則ヲ遵守セサル可ラス

第三條 邑官ハ雇人口入所ヲ監視シテ秩序ノ保守ト管理ノ正實
トヲ保固ス可シ

又邑官ハ此事ノ爲メニ必要ナル決定書ヲ制定シ及ヒ管理^{シエラン}者ニ
於テ收受スルヲ得キ手数料ノ定價ヲ規定ス可シ

第四條 第一條及ヒ第二條ノ第二項ニ違背シ又ハ第三條ニ循ヒ
制定シタル規則ニ違背シタル者ハ一法以上十五法以下ノ罰金
ト五日以下ノ禁錮トニ處ス可ク又其情狀ニ因リ兩刑中ノ一ニ
處ス可シ

若シ其犯人過シル十二箇月間内ニ該敕書又ハ右ノ警察規則ニ違背シタルカ爲メニ刑ノ言渡ヲ受ケシ者ナル時ハ必ス常ニ最高額ノ罰金ト最長期ノ禁錮トヲ適用ス可シ此等ノ刑ハ管理者ニ於テ負擔ス可キ損害ノ償還及ヒ賠償ト全ク異ナル者トス

刑法第四百六十三條ハ右ニ記載シタル違警罪ニ適用ス

第五條 邑廳ハ左ニ記列スル各人ヨリ免許狀ヲ引上クルヲ得

第一 千八百五十二年二月二日ノ敕書第十五條ノ第一項第

三項、第四項、第五項、第六項、第十四項、第十五項及ヒ第十六條

ニ掲ケタル刑中ノ一ニ處セラレタル者又ハ處セラレ可キ

者

第二 結黨ノ罪ヲ犯シテ處刑セラレタル者又ハ處刑セラレ

可キ者

第三 該敕書又ハ其第三條ニ從ヒ制定シタル決定書ニ違背

シテ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者

第六條 前數條ニ於テ邑官ニ與ヘタル職權ハ巴里府及ヒ警察廳

ノ管内ニ於テハ警察令之ヲ執行ス可ク又里昂府及ヒ千八百五

十一年六月二十四日ノ法律ヲ以テ羅納州長ノ管轄ニ屬シタル

諸邑ニ於テハ羅納州長之ヲ執行ス可シ

第七條 免許狀ノ引上ケ及ヒ前數條ニ依準シ邑官ヨリ發布シタ

ル規則ハ州長ノ認可ヲ經タル後ニ非サレハ執行スルヲ得サ

ル者トス

(參考)千八百五十二年二月二日ノ敕書要摘

第十五條

第一項 施體及ヒ加辱ノ刑ニ處セラレ又ハ加辱ノ刑ノミニ處

セラレタルニ由リ民權及ヒ政權ヲ剝奪セラレタル各人

第三項 刑法第四百六十三條ニ循ヒ重罪ノ爲メ禁錮ノ刑ニ處

セラレタル各人

第四項 刑法第三百十八條(變造シタル)及ヒ第四百二十三條(販

賣)ニ係タル(商品)ニ循ヒ三箇月ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル各人

第五項 竊盜、騙詐、背信及ヒ風俗ニ對スル害科ノ爲メ禁錮ノ刑

ニ處セラレタル各人

第六項 出版ノ方法ヲ以テ公ケノ道德及ヒ法教ノ道德又ハ善

良ナル風俗ヲ害シタル爲メ又ハ所有權及ヒ家族權ヲ攻撃シ

タル爲メニ處刑セラレタル各人

第十四項 千八百五十一年三月二十七日ノ法律第一條(食品ノ

變造)ニ循ヒ處刑セラレタル各人

第十五項 高利貸ニ係ル輕罪ノ爲メニ處刑セラレタル各人

第十六項 公權又ハ公力ヲ預ル官吏ニ對シテ抗命、罵詈及ヒ暴行

ヲ爲シタル爲メ、陪審人又ハ證人ニ對シテ公ケニ罵詈誹謗シタ

ル爲メ、凶群ニ關スル法律及ヒ私會ニ關スル法律ニ揭ケタル輕

罪ノ爲メ及ヒ行商ニ係ル犯罪ノ爲メニ一箇月以上ノ禁錮ノ刑

ニ處セラレタル各人

○千八百五十二年十月五日ノ巴里府警察法令

第一條 何人ニ限ラス如何ナル名義ヲ以テスルモ及ヒ如何ナル

職業、雇口若クハ任務ノ爲メナリト警察廳ヨリ特別免許狀ヲ請

ヒ受ケスシテ雇人口入所ヲ開設スルコトヲ得ズ

第二條 免許願書ニハ願人ニ於テ其職業ヲ行フニ付キ守ラント

欲スル所ノ約款ヲ記載ス可シ

第三條 願人ハ其免許願書ニ所轄警察使又ハ邑長ヨリ請ヒ受ケ
タル出產證書居住證書及ヒ品行證書ヲ添ヘテ之ヲ差出ス可シ
又願人ハ雇人口入所ヲ設置セント欲スル場所ヲ申出ツ可シ此
場所ハ衛生秩序及ヒ安寧ニ必要ナル諸約款ヲ具備スルヲ要ス
第四條 免許狀ノ効力ハ之ヲ受ケタル者一人ニ止マル者トス
轉住スル場合ニ於テハ更ニ其轉住地ヲ當廳ニ届出テ認許ヲ受
ク可シ
支店ヲ設クルハ制禁トス

第五條 各雇人口入營業人ハ免許狀ニ定メタル體裁ニ循ヒ帳簿
ヲ設備ス可シ
此帳簿ニハ警察使又ハ邑長ニ於テ其首葉及ヒ尾葉ニ番號ヲ記

シ並ニ其每葉ニ姓名ニ代用スル横線ヲ畫スル者トス
此帳簿ハ毎月一日ヨリ五日迄ノ間ニ之ヲ警察使又ハ邑長ニ差
出シテ檢署ヲ受ク可シ
此帳簿ニハ剩白ヲ置カヌ塗抹及ヒ欄外ノ書入レヲ爲サズシテ
毎日順次ニ記載ス可シ

又此帳簿ハ官吏ノ需求ニ應シ何時タリモ之ヲ開示ス可シ
第六條 豫メ帳簿ニ登録セラレサル者ノ口入ハ一切之ヲ爲スコ
ク得ス

此帳簿ニハ雇人ヲラント欲スル者ノ姓名年齢產地職業及ヒ住
所ト其品行及ヒ身分ヲ證スル爲メニ差出シタル書類トヲ登記
スル者トス
口入人ハ雇人ヲラント欲スル者ノ承諾ヲ受ケ其預リ證書ヲ本

人ニ渡サスシテ右ノ書類ヲ要管スルコトヲ得ス若シ其本人ヨリ書類ノ返還ヲ求ムルキハ直チニ之ヲ還付セサル可ラス

第七條 管理者ニ於テ收受スルヲ得可キ口入金及ヒ登記料ハ千八百五十二年三月二十五日ノ敕書ニ依準シ免許狀ヲ以テ之ヲ定ム可シ但登記料ハ何レノ場合ニ於テモ五十撒以上タルコトヲ得ス

又此免許狀ニハ雇人口入所ノ守ル可キ特別ノ諸約款ヲ記入ス可シ

第八條 口入人ハ口入簿ニ登記セラレタル各人ニ其登記ノ時ニ於テ登記ノ番號口入所ニ係ル定價表ノ條件及ヒ前拂ノ名義ヲ以テ受取リタル口入金ノ請取ヲ記シタル證票ヲ無代價ニテ交付ス可シ

右ノ前拂金ハ之ヲ拂フタル者ニ於テ其登記セラレタル口入所ノ媒介ヲ受クルヲ止メテ返還ヲ求ムル時ハ直チニ之ヲ返還セサル可ラス

前拂金ノ返還ヲ否拒スルヨリ生スル爭論ハ直チニ之ヲ警察使ニ訴フ可シ警察使ハ之ヲ要スルニ當リ其調書ヲ作ル者トス
口入金ハ本廳ニ於テ之ヲ定ム故ニ口入人ニ於テ濫リニ之ヲ増減スルコトヲ得ズ

口入人ハ口入ヲ爲シタル上ニ非サレハ口入金ヲ領收スルコトヲ得ス而シテ各口入所ノ爲メ其免許狀ニ定メタル期限ノ盡キタル後ニ至ラサレハ之ヲ確定ノ所得ト爲スコトヲ得サル者トス
管理者及ヒ媒介人ハ身元保證金又ハ其他如何ナル名義ヲ以テスルモ右ニ記シタル口入金ヲ除ク外一切金員ヲ收受ス可ラス

第九條 證票ニ記シタル口入金額ハ雇主ヨリ之ヲ口入人ニ拂ヒ其雇人ノ給金中ヨリ之ヲ扣除スルヲ得可シ但之レニ反シタル約束アル時ハ此限ニ在ラス

第十條 口入人ニ於テ其帳簿又ハ家屋ノ内部若クハ外部ニ掲シル扁額或ハ貼附書ニ依頼ヲ受ケサル雇口ヲ記載シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ之ヲ廣告スルヲ嚴禁トス

第十一條 口入人ニ於テ確實ナラサル雇口ヲ確實ナリト信セシメ又ハ更ニ口入金ヲ得ントスルノ目的ヲ以テ既ニ他ニ雇ハレ居ル者ノ利益ヲ害ス可キ詐偽ノ所行ヲ爲スヲ禁ス

第十二條 又口入人ニ於テ評判宜シカラサル家ニ未丁年者ノ口入ヲ爲シ及ヒ一般ニ風俗ニ反スル雇業ヲ容易ナラシムルヲ禁ス

第十三條 該法令ノ第八條第九條第十條第十一條及ヒ第十二條ノ明文ハ帳簿ニ登記セラレタル者ニ交付スル證票ニ記載ス可シ

第十四條 (原文ヲ欠ク)

第十五條 凡ソ免許ヲ得タル雇人口入所ニ於テハ油墨ニテ記シタル招牌ヲ家屋ノ前面ニ顯掲ス可シ

第十六條 該法令及ヒ免許狀ノ各條ニ違背スル罪ハ證告書又ハ報告書ヲ以テ其證ヲ取リ之ヲ當該裁判所ニ送移ス可シ

千八百五十二年三月二十五日ノ敕書第三條ノ執行ニ係ル諸規則ハ已ニ免許ヲ得タル雇人口入所ニ無論適用スル者トス當廳ニ於テ必要ナリト思量スル時ハ免許狀ノ箇條ニ改正ヲ加フルヲアル可シ

○雇人帳ニ關スル千八百五十三年八月一日達ノ警察法令

第一條 男女ヲ問ハス巴里府内ニ於テ現ニ奉公スル者又ハ奉公
ヲ爲サント欲スル者ハ三箇月ノ期限内ニ登記票即チ雇人帳ヲ
請ヒ受クルヲ要ス若シ其之ヲ請ヒ受ケサルニ於テハ八日以上
三月以下ノ禁獄ニ處セラル可シ

右雇人帳ニハ願人ノ姓名、年齢、産地、人相及ヒ戸籍ヲ記載スル者
トス

第二條 雇人帳ハ願人ヨリ其身分ヲ證明スルニ適當ナル書類ヲ
差出サシメ及ヒ所轄警察使ヨリ交付シタル品行證書ヲ檢閲シ
タル上ニテ警察廳ヨリ之ヲ下渡ス可シ

第三條 何人タリモ成規ノ雇人帳ヲ携帯セサル雇人ヲ雇ヒ入ル
ハ、トシ得ス但此雇人帳ハ雇主ニ於テ之ヲ預リ置ク者トス

第四條 雇主ハ如何ナル口實ヲ以テスルモ解雇シタル雇人ノ雇
人帳ヲ要管スルコトヲ得ス

雇主ハ雇人ヲ解雇スル當日ニ於テ其雇人帳ニ自己ノ檢署ヲ捺
シテ所轄警察使ニ之ヲ差出スヲ要ス

雇主ハ雇人帳ニ唯々其雇入ノ日子及ヒ解雇ノ日子ノミヲ登記
スルニ限ル可シ決シテ之レニ其行狀ノ善惡等ヲ記入ス可ラス
若シ雇主ニ於テ解雇シタル雇人ノ行狀ニ付キ訴求書又ハ意見
書ヲ差出サント欲スル時ハ其雇人帳ヲ送移スル所ノ警察使ニ
之ヲ差出ス可シ

若シ雇人帳ノ還付又ハ檢署ノ事ニ付キ争論ノ發シタル時ハ警
察使ニ於テ其訴求ヲ受ケ假リニ之ヲ裁定ス可シ

第五條 解雇セラレタル雇人ハ四十八時間内ニ其雇人帳ヲ送移

セラレタル警察署ニ出頭シテ引續キ雇人ヲラント欲スルヤ否
ヲ申立ツ可シ若シ其警察署ニ出頭セサルニ於テハ二十四時間
以上四日以下ノ禁錮ニ處セラル可シ
雇人帳ハ警察使ニ於テ檢署ヲ捺シタル上ニテ本人ニ交付スル
者トス

第六條 雇主ニ命ジタル義務ハ執事アル家ニ於テハ執事之ヲ行
フコトヲ得可シ

第七條 該法令ノ各條ニ違背シタル雇人ハ右ニ掲ケタル刑ノ外
ニ其情狀ニ因リ千八百五十二年七月九日ノ法律ニ依準シテ塞
納州ヨリ之ヲ追放スルコトヲ得可シ

第八條 警察使府警察長及ヒ警察廳ノ諸吏員ハ各自其關係ノ事
ニ於テ該法令ノ執行ヲ掌ル可シ

警察廳第一局第四課第二部

第何號

巴里千八百八十何年何月何日

姓名	身幹
年齢	額
頭髮	眼
眉	口
鼻	腮
髭	膚色
顔	産地
特徴	住所
州名	

街名

番地

右ノ者ハ雇人ニ關スル法律及ヒ規則ヲ遵守スルノ義務
ヲ以テ千八百何年、何月、何日、何區ノ警察使ヨリ交付シタ
ル證書ヲ差出シタル上ニテ毎葉ニ番號ヲ附シ及ヒ横線
ヲ畫シタル十六葉綴ノ本帳ヲ申受ケタリ

警察令代理

大書記官 手署

廳印

課長 手署

千八百八十何年、何月、何日ヨリ何某ヲ雇入レ千八百八十
何年、何月、何日ニ於テ其雇ヲ解キタルコトヲ保證ス

巴里千八百八十何年、何月、何日

雇主

住所姓名

千八百八十何年、何月、何日 何區警察使 檢署

○處分手續

第一項 新タニ雇人口入所ヲ開設シタル者アルノ報知
ヲ受ケタル警察官ハ其者ヲシテ免許狀ヲ展示セシム
ルヲ要ス

第二項 若シ其者ニ於テ免許狀ヲ所持セザル時ハ其口
入所ノ閉鎖ヲ命シ帳簿並ニ書類ヲ押收シ之レニ封印
及ヒ紙箋ヲ附シテ裁判所ノ書記局ニ送致シ且其調書
ヲ作ルヲ要ス

第三項 若シ其者ニ於テ免許狀ヲ所持スル時ハ其命セ
ラレタル條件ト現行警察規則トノ遵守ヲ保固スルヲ
要ス

第四項 背信ノ事件又ハ其他ノ事件ニ係ル確實ノ告訴
アル時ハ口入所ノ管理者並ニ其從犯者ヲ逮捕スルヲ
ヲ得可シ

○調書ノ文例

千八百何年、何月、何日、余官吏ノ姓名官職住所ヲ記ス何某氏其年齢職業ノ何住所ヲ記ス
月、何日以來何處ニ於テ雇人口入所ヲ開設シタリトノ報
知ヲ得タルニ因リ附屬吏員一名ヲ伴フテ現場ニ出張シ
本人ニ其免許狀ヲ展示ス可キ旨ヲ命シタルニ渠レ左ノ
如ク答述セリ其答ヲ記ス可シ
右何某氏ハ口入所開設ノ免許狀ヲ所持セサルニ依リ余
ハ渠レニ違警罪タル旨ヲ告ケ其營業ニ係ル帳簿及ヒ書
類ヲ押收シテ之レニ封印ヲ附シ且其口入所ノ閉鎖ヲ命

シタリ

是ニ由テ余ハ本書ヲ作り之ヲ朗讀シタル後ヲ犯人及ヒ
附屬吏員ト俱ニ之レニ姓名ヲ手署シタリ若シ犯人ニ於テ姓名ヲ手署スル
トヲ拒ミタルハ其旨ヲ記ス可シ

○專賣特許免狀原語「アレヴエー、ダン」

偽造ノ部ヲ見ル可シ

Cノ部

○居酒屋原語「カハレ」

公場及ヒ道路ノ部ヲ見ル可シ

○貸書肆原語「カピチー」

出版ノ部ヲ参照ス可シ

第一項 貸書商ハ書籍商ト全一ノ免許狀ヲ受ク可キ者

トス

第二項 新聞紙縦覽所ハ前項ノ例ニアラスト雖行政官ヨリ允許狀ヲ受ク可キ者トス

○印刷所及ヒ書肆ニ關スル規則ヲ定メタル千八百十年二月五日公布ノ法律(原文ヲ欠ク)

○書籍商ニ關スル千八百十二年七月十一日公布ノ法律(同上)

○出版ノ自由ニ關スル千八百十四年十月廿一日公布ノ法律

要綱

第二章 出版ノ警察

第十一條 何人ニ限ラズ國王ヨリ免許狀ヲ受ケス且宣誓ヲ爲サ

セル者ハ書籍商又ハ印刷人ノ業ヲ營ムコトヲ得ス

第十二條 裁判宣告ニ依リ法律及ヒ規則ニ違背シタルコトヲ證明

セラレタル印刷人又ハ書籍商ハ其免許狀ヲ引上ケラルコトアル可シ

第十三條 隱密印刷所ハ之ヲ取毀テ其占有者及ヒ受託者ヲ一萬法ノ罰金ト六月ノ禁錮トニ處ス可シ

書肆總理局ニ届出テス且其允許狀ヲ受ケザル印刷所ハ總テ隱密ナルモノト看做ス可シ

第十四條 凡ソ印刷人ハ一箇ノ文書ヲ印刷セント欲スル旨届出タル後ニ非サレバ之ヲ印刷スルコトヲ得ス又巴里府ニ於テハ總理局ノ書記課及ヒ各州ニ於テハ州廳ノ書記局ニ定數ノ印本ヲ納付シタル後ニ非サレバ如何ナル方法ヲ以テスルヲ問ハス之ヲ販賣ニ供シ或ハ之ヲ發兌スルコトヲ得ス

第十五條 左ニ列記スル場合ニ於テハ其著書ヲ押收シテ之ヲ附

託ス可シ

第一 印刷人ニ於テ前條ニ定メタル届書及ヒ納本ノ領收票ヲ開示セサル時

第二 各印本ニ其印刷人ノ真正ナル住所及ヒ姓名ヲ記サ、ル時

第三 著書ニ記載シタル事項ノ爲メ裁判所ニ告訴セラレタル時

第十六條 前條ニ記シタル如ク印刷スル以前ニ届書ヲ差出サス又發覺スル以前ニ納本セサルノ證アル時ハ初犯ハ一千法ノ罰金ニ處シ再犯ハ二千法ノ罰金ニ處ス可シ

第十七條 印刷書ニ自己ノ住所及ヒ姓名ヲ記サ、ル印刷人ハ三千法ノ罰金ニ處ス可シ又偽リノ住所及ヒ姓名ヲ記シタル印刷

人ハ六千法ノ罰金ニ處ス可シ但刑法ニ定ムル禁錮ノ刑ト相觸ル、ト勿ル可シ

第十八條 本法ニ對スル單純ナル違犯ノ爲メニ押收シタル印本ハ罰金ヲ完納セシメタル後ニ之ヲ還付ス可キ者トス

第十九條 凡ソ印刷人ノ姓名ヲ記サ、ル著書ヲ所持シ又ハ之ヲ販賣ニ供シ或ハ之ヲ分配シタルノ證アル書籍商ハ二千法ノ罰金ニ處ス可シ但本法ノ宣令前ニ印刷シタルノ證アルモノハ格別ナリトス又其書籍商ニ於テ印刷人ノ姓名ヲ申立タル時ハ其罰金ヲ一千法ニ減ス可シ

第二十條 前數條ノ成規ニ違背スル罪ハ書肆監吏及ヒ警察使ノ調書ヲ以テ之ヲ檢證ス可シ

第二十一條 檢察官ハ書肆總理局長ノ告發ト前條ニ記シタル調

書ノ寫トテ受ケタル上職權ヲ以テ其犯則者ヲ輕罪裁判所ニ告
訴ス可シ

○出版ニ關スル千八百五十二年二月十七日ノ定制デクレイテカニウク救書要

第二十四條 千八百十四年十月二十一日ノ法律第十一條ニ於テ

必要ナリト定メタル免許狀ヲ請ヒ受ケスシテ書肆ノ業ヲ營ミ

タル各人ハ一月以上二年以下ノ禁錮ト百法以上二千法以下ノ

罰金トニ處シ且其閉肆ヲ命ス可シ

○處分手續

第一項 貸書肆ヲ開設シタル者アルノ報知ヲ得タル警

察官ハ其者ヲシテ免許狀アレンヂヲ展示セシムルヲ要ス若シ

其之ヲ所持セサル時ハ調書ヲ作り閉肆ヲ命シ且法律

ニ違背スル書籍及ヒ印本ヲ調査ス可キ者トス

第二項 新聞紙縱覽所ヲ開設シタル者アルノ報知ヲ得

タル警察官ハ其者ヲシテ免許書ペルミツシヤンヲ展示セシムルヲ要

ス若シ其之ヲ所持セサル時ハ其犯則ヲ檢證シ及ヒ閉

所ヲ命シ且縱覽ニ供シタル新聞紙ヲ調査ス可キ者ト

ス

第三項 前二項ノ場合ニ於テスル調査ハ豫メ行政官即

州長ノ訓示ヲ請ヒ受ケ鄭重ニ之ヲ行フ可キ者トス

○調書ノ文例

千八百何年何月何日余官吏ノ姓名官職住所ヲ記ス何某氏ナル者何所ニ

於テ貸書肆ヲ開設シ書籍ヲ貸貸スルトノ報知ヲ得タル

ニ依リ附屬吏員一名ヲ伴フテ其肆ニ到リ本人ニ其免許

狀ヲ展示ス可キ旨ヲ求メタルニ渠レ左ノ如ク答述セリ

其答ヲ記
ス可シ

右何某氏ハ免許狀ヲ所持セサルニ依リ余ハ渠レニ違警
罪タル旨ヲ告ケ且閉肆ヲ命シタリ
是ニ由テ余ハ本書ヲ作り之ヲ朗讀シタル後十犯人及ヒ
附屬吏員ト俱ニ之レニ姓名ヲ手署シタリ若シ犯人ニ於テ
姓名ヲ手署スル
ヲ拒ミタル時ハ
其旨ヲ記ス可シ

(若シ官署ノ訓令又ハ按據ニ依リ應禁ノ書籍又ハ印本ヲ展覽ニ供ス
ルヲ知リタル時ハ當メ其肆内ノミナラス猶ホ其犯人ノ家宅ヲモ
綿密ニ搜索シ應禁ノ書籍及ヒ印本ヲ押收シテ之ヲ箱若クハ籠ニ入
レ犯人ノ面前ニ於テ其箱若クハ籠ニ封印及ヒ紙箋ヲ附シ之ヲ裁判
所ノ書記局ニ送致ス可シ)
(若シ新聞紙縦覽所ニ關スル時ハ其免許書ヲ展示セシメテ前述ノ如

ク處置スルヲ要ス)

◎二輪車 原語「カブ
リオレー」

陸運並ニ道路ノ部ヲ見ル可シ

◎死屍 原語「カ
ダヴル」

變死並ニ死體除去ノ部ヲ見ル可シ

◎珈琲店 原語「カフ
フェー」

公場並ニ道路ノ部ヲ見ル可シ

◎讒誣 原語「カ
ロニ」

讒謔罵詈並ニ出版ノ部ヲ見ル可シ

◎藏劍杖 原語「カ
ンヌ」

制禁兵器ノ部ヲ見ル可シ

◎戒肉節 原語「カ
ラウ」

異裝ノ部ヲ見ル可シ

◎保安券

原語カルトド、
シウルテ

旅券ノ部ヲ参照ス可シ

- 第一項 有効期限ノ盡キサル成規ノ旅券ヲ携帯シ所用ノ爲メ數日間例セハ日間某邑ニ滞留セント欲スル他管人ハ二名ノ證人ヲ立テ、其身上ヲ保證シ且其旅券ヲ差出シテ邑長又ハ警察使ヨリ保安券ヲ請ヒ受クルヲ要ス
- 第二項 旅券ヲ携帯セサル他管人ハ一箇年間某邑ニ居住シタル後ニ其公正ナル出產證書ヲ差出シ且其邑内ニ住居スル者二名ヲ證人ニ立テ、保安券ヲ請ヒ受クルヲ得

第三項 保安券ニハ旅券ニ記載シタル諸件ト願人及ヒ證人ノ姓名トヲ登記スル者トス

●第四項 保安券ハ旅券ト均シク一箇年ヲ以テ有効ノ期限トス

第五項 成規ノ旅券モ又保安券ヲモ携帯セス且其姓名不明ナル者ハ流浪者トシテ之ヲ逮捕スルヲ得

第六項 保安券下渡ノ方法ハ邑官ノ職權ニ關スル法律ニ準據シ地方官ノ制定スル警察規則ヲ以テ之ヲ定ムル者トス

○刑法

第二百六十九條 流浪ハ一箇ノ輕罪ナリトス

第二百七十條 流浪者即チ無宿人トハ定マリタル住所モ又生計

ノ方法モ有セズ且平常工技モ又職業モ行ハザル者ヲ云フ

第二百七十一條 法ニ適シテ流浪者即チ無宿人ナリト宣告セラレタル者ハ其所爲ノミノ爲メ三月以上六月以下ノ禁錮ニ處ス可シ○此流浪者即チ無宿人ハ其刑ヲ受テ終リシ後チ五年以上十年以下ノ時間高等警察ノ監視ニ付ス可キ者トス○然レモ十六歳以下ノ流浪者ハ禁錮ノ刑ニ處スルヲ得ズ唯ダ其流浪ノ證據ノミニ依リ滿二十歳ノ齡ニ至ルマデ高等警察ノ監視ニ付ス可シ但其二十歳ニ至ラザル前ニ海陸軍ノ兵籍ニ入ルノ約定ヲ爲シタル時ハ格別ナリトス

第二百七十二條 裁判ニ依リ流浪者ナリト宣告セラレタル者若シ外國人ナル時ハ政府ノ命令ヲ以テ之ヲ王國ノ領地外ニ送致スルヲ得可シ

第二百七十三條 佛蘭西ニ於テ生レタル流浪者ハ確定ノ裁判言渡後ト雖モ其生レタル邑ノ邑會ノ議定ニ依リ其引渡ヲ得ント要求スルヲ得可ク又ハ負債辨償ノ資力ヲ有スル國士シトライヤンニ於テ之ヲ保證スルヲ得可シ

若シ政府ニ於テ邑會ノ要求ヲ聞届ケ又ハ保證人ヲ承認シタル時ハ政府ノ命令ヲ以テ右要求セラレ又ハ保證セラレタル各人○其引渡ヲ要求シタル邑又ハ保證人ノ請求ニ依リ其居住ノ爲メニ定メラレタル邑ニ送還シ又ハ之ヲ送致ス可シ

○邑内警察ニ關スル共和四年釀月十日公布ノ法律要摘

第五條 若シ犯罪ノ行ハレタル地ヲ管轄スル邑ニ住居セザル人民ヨリ亂群ヲ組成シ且該邑ニ於テ其犯罪ヲ防制シ及ヒ其首謀者ヲ發見スル爲メ力ヲ及テ限リ處分ヲ爲シタル場合ニ於テハ

一切其實ヲ免カレ、者トス

○旅券ニ關スル千八百七年九月十八日公布ノ敕書(原文ヲ)

○旅券及ヒ獵銃携帯ニ關スル千八百十年七月十一日公布ノ

敕書(全)

○千八百四十四年五月三日ノ法律(狩獵ノ部ニ屬ク)

○處分手續

- 第一項 總テ旅人ハ其旅券ヲ警察官ニ展示スルヲ要ス
- 第二項 旅券ヲ携帯セサル旅人アル時ハ其旅券ニ代用スルヲ得可キ書類ヲ差出サシメ及ヒ其慥ナル保證人ヲ申立テシムル爲メ之ヲ警察署ニ引致スルヲ要ス
- 第三項 旅券ヲ携帯セス且其身分ヲ證明スル書類ヲ差出サ、ル旅人ハ流浪者トシテ之ヲ拘引シ檢事ノ處分

ニ付スルヲ要ス

○調書ノ文例

千八百何年、何月、何日、余官吏ノ姓名、官職、住所ヲ記スハ他管人何某氏其年、
職、業、産地及ナ呼出シテ其旅券ヲ展示ス可キ旨ヲ要求
住所ヲ記スシタルニ渠レ之ヲ余ニ展示セリ然レモ余ハ其旅券ノ不
完全ナル事又ハ既ニ其有効期限ノ盡キタル事ヲ認メタ
ルニ依リ之ヲ押收シタリ

次ニ余ハ右何某氏ニ本府若クハ邑ニ滞在スル事由ト其來着
シタル日時トヲ訊問シタルニ渠レ左ノ如ク答述セリ其
可レ記ス

又余ハ右何某氏ニ本府若クハ邑ノ居住人中ニ其身上ヲ保證
スルヲ得可キ知己ヲ有スルヤ否ヲ訊問シタルニ渠レ之

ヲ有セサル旨ヲ答述セシニ依リ流浪者トシテ之ヲ拘留
シタリ
余ハ本人ノ面前ニ於テ其住室ヲ搜索シ左ノ諸件ヲ目撃
セリ其室内ニ在リタル物件ト其衣
服ノ摸樣トヲ精細ニ配ス可シ
是ニ由テ余ハ本書ヲ作り之ヲ朗讀シタル後ヲ附屬吏員
ト共テ之レニ姓名ヲ手署シタリ

(右ノ訊問書ハ問答ノ體裁ヲ以テ記スルヲ要ス)

◎陽物截斷 原語「カスト
ヲシオン」

宥恕ス可キノ事由ナク例セハ暴行ヲ以テスル猥褻ノ辱
ヲ直接ニ受ケタルニ非スシテ人ノ陽物ヲ截斷スルハ
重罪タリ

○刑法要綱

第三百十六條 陽物ヲ截斷スル重罪ヲ犯シタル各人ハ無期徒刑
ニ處ス可シ

若シ陽物ヲ截斷セラレタル者四十日間内ニ死去シタル時ハ其
犯人ヲ死刑ニ處ス可シ

第三百二十五條 陽物ヲ截斷スル重罪ハ暴行ヲ以テスル猥褻ノ
所行ニ依リ直チニ挑ミ起サレタル時ハ宥恕ス可キノ故殺又ハ
創傷ト看做ス可シ

第三百二十六條 若シ死刑無期徒刑又ハ流刑ニ該當ス可キノ重罪
ニ宥恕ス可キノ情狀アル時ハ其刑ヲ一年以上五年以下ノ禁錮
ニ減輕ス可シ

若シ總テ其他ノ重罪ニ宥恕ス可キノ情狀アル時ハ其刑ヲ六月
以上二年以下ノ禁錮ニ處ス可シ

右二箇ノ場合ニ於テハ右ノ外ニ上等裁判所又ハ下等裁判所ノ
裁判官渡書ヲ以テ五年以上十年以下ノ時間高等警察ノ監視ニ
附スルコトヲ得可シ

若シ又輕罪ニ宥恕ス可キノ情狀アル時ハ其刑ヲ六日以上六月
以下ノ禁錮ニ減輕ス可シ

○處分手續

第一項 陽物ヲ截斷セラレタル者アリトノ報知ヲ得タ
ル警察官ハ直チニ現場ニ出張シテ其所爲ヲ調査シ且
之ヲ惹起シタル模様ヲ證明ス可シ

第二項 暴行ヲ以テスル猥褻ノ辱メヲ直接ニ受ケタル
ニ依リ正當防衛ノ爲メ人ノ陽物ヲ截斷シタル場合ト
雖モ警察官ハ其被辱者及ヒ被害者ノ陳述ヲ聽キ且其

證人及ヒ隣人ノ申述ヲ聽ク可シ

第三項 直チニ檢事ト醫師トニ報知スルヲ要ス

第四項 何レノ場合ニ於テモ宥恕ス可キノ情狀アルト
否トヲ問ハス其重罪ヲ犯シタル者ヲ繫囚スルヲ良ト
ス

○調書ノ文例

千八百何年何月何日、余官吏ノ姓名官職住所ヲ記ス何某氏ナル者陽物
ヲ截斷セラレタリトノ報知ヲ得タルニ依リ檢事ト醫師
トニ其旨ヲ急報シタル後チ直チニ數名ノ附屬吏員ヲ伴
フテ午前又第何時何十分何所ニ出張シテ左ノ諸件ヲ目
撃シタリ場所ノ模様ヲ記シ、被害者ノ申述ヲ聽キ、犯罪前
後ノ景況ヲ記シ及ヒ犯罪ノ用ニ供シタル器械
ヲ押收シ

(如何ナル場合ニ於テモ其犯人ヲ逮捕ス可シ)

(別々ニ證人及ヒ隣人ノ申述ヲ聽ク可シ)

是ニ由テ余ハ本書ヲ作り之ヲ朗讀シタル後テ證人及ヒ
附屬吏員ト俱ニ之レニ姓名ヲ手署シタリ

◎ 謳歌者 原語「シヤ
ソトル」

戲談師並ニ道路ノ部ヲ見ル可シ

◎ 嘲罵 原語「シヤリ
ゾワリ」

嘈聲及ヒ噪鬧ノ部ヲ見ル可シ

◎ 戲術師 原語「シヤ
ルラタン」

戲談師並ニ道路ノ部ヲ見ル可シ

◎ 狩獵 原語「ヤ
ツス」

第一項 狩獵ヲ爲サント欲スル者ハ州長ヨリ下渡ス所

ノ免許狀ヲ携帯スルヲ必要トス

第二項 地主タル者ハ垣籬ヲ圍繞シテ全ク隣地トノ交

通ヲ絶テ且住宅ニ屬スル私有地内ニ於テ時季ノ如何

ヲ問ハス免許狀ヲ受ケスシテ自カラ狩獵ヲ爲シ又ハ

人ヲシテ之ヲ爲サシムルヲ得ル者トス

第三項 狩獵開閉時限ハ州長ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム

ル者トス

第四項 狩獵制禁時限ニ於テハ狩ニテ獲タル鳥獸ヲ街

賣シ又ハ賣買スルヲ嚴禁トス

第五項 應禁ノ鳥獸ハ之ヲ押收シ治安裁判官又ハ邑長

ノ命令ニ從ヒ慈惠院ニ交付スル者トス

第六項 應禁鳥獸ノ搜索ハ公場ニ於テスルニ止マリ住

所ニ立入りテ之ヲ爲スヲ得ス

六八二

第七項 狩獵免許狀ハ邑長及ヒ郡長ノ意見書ニ依リ二十五法ノ税金ヲ完納セシメタル上ニテ州長ヨリ之ヲ下渡ス但其内十法ハ免許狀下渡ニ係ル意見書ヲ出シタル邑長ノ管轄スル邑ニ交付スル者トス

第八項 狩獵免許狀ノ効力ハ之ヲ請ヒ受ケタル者一人ニ止マリ一箇年ヲ以テ其期限トス

第九項 十六歳以下ノ幼者ニハ狩獵免許狀ヲ下渡サス又十六歳以上二十一歳以下ノ幼者ニハ其身上ヲ管照スル者ヨリ願書ヲ差出サシメタル上ニ非サレハ之ヲ下渡サ、ル者トス

第十項 野警人林警人漁警人及ヒ公立建物ノ警人ニハ

狩獵免許狀ヲ下渡スヲ得ス

第十一項 處刑ヲ受ケタル者ニハ狩獵免許狀ノ下渡ヲ否拒ス

第十二項 狩獵ニ關スル法律ニ違背スルハ一箇ノ輕罪トス

第十三項 狩獵罪ヲ檢證スル調書ハ反證ノ出ツル迄ニ非サレハ信憑ヲ有セサル者トス

警人ノ作リタル調書ハ犯罪ノ時ヨリ二十四時内ニ其警人ノ住スル邑又ハ其犯罪ノ行ハレタル地ノ治安裁判官若クハ邑長ノ面前ニ於テ其真正ナルヲ保證スルヲ要ス然ラサレハ其効アラサル者トス

第十四項 他人ノ所有地内ニ於テ犯シタル狩獵罪ニ付

六八三

テハ損害賠償ノ訴ヲ起スヲ得ル者トス

六八四

○狩獵警察ニ關スル千八百四十四年五月三日公布ノ法律

第一章 狩獵權ノ執行

第一條

何人ナリトモ狩獵制禁時限ハ勿論假令ヒ其解禁時限ナリ

ト雖モ管轄廳ヨリ狩獵免許狀ヲ請ヒ受ケスシテ狩獵スルヲ得ス但次條ニ掲ケル場合ハ格別ナリトス

又何人ナリトモ所有者又ハ其承權者ノ承諾ヲ得ス他人ニ屬スル所有地内ニ於テ狩獵スルノ權ナシ

第二條

所有者又ハ使用者ハ垣籬ヲ圍繞シテ全ク隣地トノ交通

ヲ絶テ且其住宅ニ屬スル所有地内ニ於テ時季ノ如何ヲ問ハス狩獵免許狀ヲ請ヒ受ケスシテ自カラ狩獵ヲ爲シ又ハ人ヲシテ之ヲ爲サシムルヲ得可シ

第三條

(千八百七十四年一月二十二日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク改正ス)

州長ハ遅クモ十日以前ニ公布スル決定書ヲ以テ其管内ノ狩獵開閉時限ヲ定ム可シ

第四條

各州ニ於テハ其狩獵制禁時限中ニ狩コテ獲タル鳥獸ヲ

運搬シ賣買シ販賣ニ供シ及ヒ之ヲ街賣スルヲ禁ス

本條ノ成規ニ違背シタル者アル時ハ其鳥獸ヲ押收シテ直チニ最近ノ慈惠院ニ交付ス可シ但縣ノ治所タル邑ニ於テ鳥獸ヲ押收シタル時ハ治安裁判官ノ命令書ニ依リ又治安裁判官ノ在ラサル時或ハ縣ノ治所ニアラサル邑ニ於テ鳥獸ヲ押收シタル時ハ邑長ノ免許書ニ依リ之ヲ交付ス可キ者トス
此命令書及ヒ免許書ハ鳥獸ヲ押收シタル警吏若クハ警人ノ請求書及ヒ其法ニ適シテ作りタル證書ニ依リ之ヲ下付ス可キ

六八五

者トス

六八六

鳥獸ニ係ル搜索ハ旅店、食舖等凡ソ公衆ノ縱入スルヲ得可キ場
所ニ非キレハ住所ニ就テ之ヲ爲スヲ得ス
他人ノ所有地内ニアル雉子、鳩、及ヒ鶉ノ卵巢ヲ取り或ハ毀ッ
ヲ禁ス

第五條 狩獵免許狀ハ邑長若クハ郡長ノ意見書ニ依リ願人ノ住
居レ或ハ寄留スル地ヲ管轄スル州長ヨリ之ヲ下渡ス可シ
狩獵免許狀ハ十五法ノ税金ヲ政府ニ完納セシメ及ヒ前項ニ記
スル意見書ヲ差出シタル邑長ノ管轄スル邑ニ十法ノ税金ヲ完
納セシメタル上ニテ之ヲ下渡ス可キ者トス
狩獵免許狀ハ特ニ之ヲ請ヒ受ケタル者ニ屬シ一箇年間佛蘭西
全國ニ通用フルヲ得可キ者トス

第六條 州長ハ左ニ列記スル各人ニ狩獵免許狀ノ下渡ヲ否拒ス
ルヲ得可シ

- 第一 自己ノ姓名又ハ其父母ノ姓名ヲ收稅簿上ニ登記セラ
レサル各丁年者
- 第二 裁判宣告ニ依リ刑法第四十二條ニ列記シタル權利中
兵器ヲ携帯スル權利ヨリモ他ノ權利ノ一又ハ二以上ヲ剝
奪セラレタル各人
- 第三 官吏ニ對シテ抗命又ハ暴行ヲ爲シタルカ爲メ六月以
上ノ禁錮ニ處セラレタル各人
- 第四 違法ノ結社ヲ爲シ、火藥、兵器及ヒ其他ノ軍資ヲ製造シ、
零賣シ若クハ分配シ、書類又ハ言詞ヲ以テ脅迫ヲ爲シ、穀物
ノ運搬ヲ妨害シ、樹木又ハ收穫物及ヒ天造又ハ人作ノ植物

六八七

ヲ荒損シタルカ爲メニ處刑ヲ受ケタル各人

第五 沈浪乞巧、竊盜、詐僞又ハ背信ノ罪ヲ犯シタルカ爲メニ處刑ヲ受ケタル各人

右第三項ヨリ第五項マテニ記シタル各人ニ狩獵免許狀ノ下渡ヲ否拒スルノ權利ハ其刑期滿盡ノ時ヨリ五箇年ヲ經過スレハ止息スル者トス

第七條 左ニ列記スル各人ニハ狩獵免許狀ヲ下渡サ、ル者トス

第一 滿十六歳以下ノ未丁年者

第二 收稅簿上ニ姓名ヲ登記セラレタル父母後見人若シハ管財人ヨリ狩獵免許狀ノ下渡ヲ出願セサル十六歳以上ニ

十一歳以下ノ未丁年者

第三 治産ノ禁ヲ受ケタル者

第四 各邑又ハ公舎ニ屬スル野警人及ヒ林警人並ニ政府ニ屬スル林警人及ヒ漁警人

第八條 左ニ列記スル各人ニハ狩獵免許狀ヲ下付ス可ラサル者トス

第一 裁判宣告ニ依リ兵器ヲ携帯スルノ權利ヲ剝奪セラレタル者

第二 本法ニ掲ケタル輕罪中ノ一ヲ犯シタルカ爲メニ宣告セラレタル刑ヲ履行セサル者

第三 高等警察ノ監視ニ付セラレタル處刑人

第九條 (千八百七十四年一月二十四日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク改正ス) 狩獵免許狀ヲ請ヒ受ケタル者ハ狩獵解禁時限ニ於テ州長ノ決定書ニ定メタル區別ニ從ヒ晝間ニ獵銃若シハ獵犬ヲ用

ヒ又ハ角聲若クハ叫聲ヲ發シ自己ノ所有地内及ヒ狩獵權ヲ有
スル者ノ所有地内ニ於テ其承諾ヲ受ケ狩獵スルノ權アル可シ
兎ヲ狩ルニ定メタル「ヒュレ」一種ノ及ヒ網罟^{フリス}ハ除キ其他總テノ方
法ヲ用ヒテ狩獵スルヲ嚴禁トス
然レ州長ハ州會ノ意見ヲ聽キ左ノ諸件ヲ定ムル決定書ヲ制
定ス可シ

第一 鶉以外ノ客鳥狩獵時限、鳥名表及ヒ各種ノ狩獵方法

第二 池沼及ヒ河川ニ於ケル水禽ノ狩獵解禁時限

第三 時季ノ如何ヲ問ハス所有者、使用者又ハ小作人ノ其所
有地内ニ於テ撲殺スルヲ得キ惡獸害禽ノ種類並ニ此權
利ヲ執行スルノ約款但所有者又ハ小作人ニ於テ銃器ヲ用
ヒ其所有地ヲ荒損スル鳥獸ヲ驅逐シ又ハ撲殺スルヲ得ル

ノ權利ト相觸ル、コ勿ル可シ

又州長ハ左ノ諸件ニ係ル決定書ヲ制定スルコトヲ得可シ

第一 鳥類ノ殲殺ヲ豫防シ又ハ其繁殖ヲ謀ル事

第二 惡獸又ハ害禽ヲ驅除スル爲メニ長脚狗ノ使用ヲ許ス

事

第三 降雪時間ニ狩獵ヲ禁止スル事

第十條 狩獵罪ニ付テ證書ヲ作リタル警人及ヒ憲兵卒ニ付與
ス可キ賞與金ハ證書ヲ以テ之ヲ定ム可シ

○第二章 刑罰

第十一條 左ニ列記スル罪ヲ犯シタル各人ハ十六法以上百法以
下ノ罰金ニ處ス可シ

第一 狩獵免許狀ヲ請ヒ受ケスシテ狩獵シタル者

第三 他人ノ所有地内ニ於テ其承諾ヲ得スシテ狩獵シタル者

若シ未タ果實ヲ摘收セサル土地又ハ住宅ニ屬セスト雖モ垣籬ヲ圍繞シテ全ク隣地トノ交通ヲ絶チタル土地ニ於テ狩獵シタル時ハ其罰金ヲ右ノ二倍ニ至ルマテ加重スルヲ得可シ
畜主ノ所有地内ニアリタル鳥獸ヲ追跡シテ他人ノ所有地内ニ闖入シタル獵犬ノ所爲ハ狩獵罪ト看做スヲ得ス但之レガ爲メニ損害ヲ惹起シタル場合ニ於テ被害者ヨリ要償ノ訴ヲ起スハ格別ナリトス

第三 客鳥水禽降雪間ノ狩獵、長脚狗ノ使用、鳥類ノ殲殺及ヒ惡獸害禽ノ驅除ニ係ル決定書ニ違背シタル者

第四 他人ノ所有地内ニアル雉子、鳩、鴿又ハ鶉ノ卵巢ヲ取り

若クハ毀チタル者

第五 森林規則ニ従フ可キ森林ニ於テ又ハ邑若クハ公舎ヨリ狩獵權ヲ借受ケタル土地ニ於テ其契約書ノ條款ニ違背シタル狩獵權借受人

第十二條 左ニ列記スル罪ヲ犯シタル各人ハ五十法以上二百法以下ノ罰金ニ處シ且六日以上十二月以下ノ禁錮ニ處スルヲ得可シ

第一 制禁時限ニ於テ狩獵シタル者

第二 夜間ニ狩獵シタル者又ハ應禁ノ獵具ヲ用ヒ或ハ第九條ニ允許シタル方法ニ異ナル方法ヲ用ヒテ狩獵シタル者
第三 應禁ノ網罟及ヒ其他ノ獵具ヲ所藏シ又ハ携帯シタル者

第四 狩獵制禁時限ニ於テ狩ニテ獲タル鳥獸ヲ運搬シ賣買
シ販賣ニ供シ若シハ街賣シタル者

第五 鳥獸ヲ昏醉セシメ又ハ斃死セシム可キ性質ノ藥餌ヲ
用ヒタル者

第六 鳥笛係蹄若シハ媒鳥ヲ用ヒテ狩獵シタル者

本條ニ定メタル刑ハ夜間ニ他人ノ所有地内ニ於テ狩獵シタル
者及ヒ第二項ニ記シタル方法ノ一ヲ用ヒ暗藏又ハ顯鑄ノ兵器
ヲ携帯シテ狩獵シタル者ニ對シニ倍ニ至ルマテ加重スルヲ
得可シ

邑ノ野警人若シハ林警人並ニ政府若シハ公舎ノ林警人ニ於テ
狩獵罪ヲ犯シタル時ハ本條及ヒ第十一條ニ定メタル刑ヲ其最
高度ニ至ルマテ加重ス可キ者トス

第十三條 垣籬ヲ圍繞シテ全ク隣地トノ交通ヲ絶テ且人ノ住居
シ又ハ住居ス可キ家屋ニ屬スル土地ニ於テ其所有者ノ承諾ヲ
得スシテ狩獵シタル者ハ五十法以上三百法以下ノ罰金ニ處シ
且六日以上三月以下ノ禁錮ニ處スルヲ得可シ
若シ夜間ニ於テ右ノ輕罪ヲ犯シタル時ハ其犯人ヲ百法以上千
法以下ノ罰金ニ處シ且三月以上二年以下ノ禁錮ニ處スルヲ
得可シ

但何レノ場合ニ於テモ刑法ニ定メタル更ニ重キ刑ト相觸ルハ
勿ル可シ

第十四條 前三條ニ定メタル刑ハ再犯ノ罪アル者、假面若シハ假
裝シタル者、姓名ヲ詐稱シタル者、人ニ對シテ暴行ヲ加ヘ或ハ脅
迫ヲ爲シタル者ニ對シ其ニ倍ニ至ルマテ加重スルヲ得可シ

但法律ニ定メタル更ニ重キ刑ト相觸ル、ヲ勿ル可シ

第十一條 列記シタル場合ニ於テ其犯人前刑ニ懲リス再ヒ罪

ヲ犯シタル時ハ六日以上三月以下ノ禁錮ヲ適用スルヲ得可

シ

第十五條 曩ニ處刑ヲ受ケシ者其犯罪ノ時ヨリ十二月以内ニ於

テ復タ本法ヲ犯シタル時ハ之ヲ再犯ナリトス

第十六條 網罟及ヒ其他諸獵具ノ沒收並ニ應禁獵具ノ毀却ハ裁

判宣告書ヲ以テ之ヲ言渡ス可シ

兵器ヲ沒收モ亦裁判宣告書ヲ以テ之ヲ言渡ス可シ但狩獵免許

狀ヲ携帯スル者ニ於テ狩獵解禁時限中ニ狩獵罪ヲ犯シタル時

ハ此限ニ在ラス

若シ兵器網罟及ヒ其他ノ獵具ヲ押收セカリシ時ハ其犯人ニ之

ヲ差出ス可キ旨ヲ言渡シ或ハ裁判宣告書ニ定ムル所ノ代金ヲ

拂フ可キ旨ヲ言渡ス可シ但其代金ハ五十法以下タルコト得サ

ル者トス

姓名知レサル犯人ノ委棄シタル兵器網罟及ヒ其他ノ獵具ハ押

收シテ當該裁判所ノ書記局ニ送致ス可シ

此等獵具ノ沒收若シハ毀却ハ其證告書ヲ檢閲シタル上ニテ之

ヲ言渡ス可キ者トス

何レノ場合ニ於テモ損害賠償ノ高ハ裁判所ノ審定ニ委任ス可

シ

第十七條 本法刑法若クハ特別法ニ記載シタル數罪俱ニ發シタ

ル場合ニ於テハ一ノ重キニ從ツテ論ス可シ

犯罪ノ證告書ヲ作りシ後ニ發覺シタル所爲ハ前罪ニ合セテ處

分スルヲ得可シ但再犯ノ刑ト相觸ル、勿ル可シ

第十八條 裁判所ハ本法ニ掲ケタル輕罪ノ爲メニ刑ヲ言渡ス場
合ニ於テ五箇年ヲ過キサル時間狩獵免許狀ヲ得ルノ權利ヲ其
犯人ニ剝奪スルヲ得可シ

第十九條 第十條ニ記載シタル賞與金ハ罰金額中ヨリ控除シ其
殘餘金ハ犯罪ノ行ハレタル邑ニ交付ス可シ

第二十條 刑法第四百六十三條ハ本法ニ掲ケタル輕罪ニ適用ス
可ラス

○第三章 起訴及ヒ裁判

第二十一條 本法ニ掲ケタル輕罪ハ證告書又ハ報告書ヲ以テ之
ヲ檢證シ若シ其證告書及ヒ報告書共ニアラサル時ハ證人ヲ以
テ之ヲ證明ス可シ但證告書及ヒ報告書アル時ト雖モ證人ヲ立

ツル下ヲ得可キ者トス

第二十二條 邑長副邑長警察使憲兵隊ノ士官下士伍長兵卒林警
人野警人又ハ各個人ニ屬スル宣誓シタル警人ノ作リタル證告
書ハ反對ノ證據出ツルニ至ルマテ信憑ヲ有ス可キ者トス

第二十三條 關稅局ノ吏員及ヒ入邑稅局ノ吏員ニ於テ其權限ヲ
守リ第四條ノ第一項ニ掲ケタル犯罪ヲ探偵檢證スルニ當リテ
作リタル證告書モ亦反對ノ證據出ツルニ至ルマテ信憑ヲ有ス
可キ者トス

第二十四條 證告書ヲ作リタル警人ハ犯罪ノ行ハレタル時ヨリ
二十四時間内ニ治安裁判官若シハ其補佐官又ハ本人ノ住居ス
ル邑ノ邑長若シハ副邑長ノ面前ニ於テ其真正ナルヲ保證ス
可シ若シ其保證ヲ爲サ、ル時ハ無効ノ者トス

第二十五條 犯人ヲ逮捕シ及ヒ其兵器ヲ剽奪スルコトヲ得ス然レ
モ若シ其犯人假裝若クハ僞面ヲ爲シ又ハ姓名ヲ述フルヲ拒ミ
或ハ確定ノ住所ヲ有セサルハ於テハ其身分ヲ訊問スル爲メ直
チ之ヲ邑長若クハ治安裁判官ノ面前ニ引致ス可シ

第二十六條 本法ニ掲ゲタル各犯罪ハ檢察官ノ職權ヲ以テ之ヲ
起訴ス可シ但治罪法第百八十二條ニ於テ被害者ニ與ヘタル權
利ヲ相觸ルベク勿ル可シ

然レモ檢察官ハ他人ノ所有地内ニ於テ其承諾ヲ得ヌシテ狩獵
スル者アリシ場合ト雖モ第二條ニ隨ヒ垣籬ヲ圍繞シ及ヒ住
宅ノ屬シタル土地又ハ未ダ果實ヲ摘收セザル土地ニ於テ犯罪
ノ行ハシタル時ニ非サレハ關係人ノ出訴ヲ待ダス職權ヲ以テ
之ヲ起訴スルコトヲ得サル者トス

第二十七條 狩獵罪ノ共犯者ハ連帶シテ罰金、損害賠償及ヒ裁判

費用ヲ負擔ス可シ

第二十八條 父母、後見人、雇主及ヒ委託者ハ其未婚ノ幼者、同居ノ
孤兒、雇人及ヒ被托者ノ犯シタル狩獵罪ニ付キ民事上ノ責ニ任
ス可シ

右ノ責任ハ民法第千三百八十四條ニ從ツテ規定シ損害賠償及
ヒ裁判費用ノミニ適用スルニ止マリ決シテ要償ノ拘留ニ處ス
ルコトヲ得サル者トス

第二十九條 凡ソ本法ニ掲ゲタル輕罪ニ係ル公訴ハ犯罪ノ行ハ
レタル日ヨリ起算シ三箇月ヲ以テ滿期免除ノ期限トス

○第四章 總則

第三十條 狩獵權ノ執行ニ係ル本法ノ條款ハ王室ノ所有地ニ適

第二十七條 狩獵罪ノ共犯者ハ連帶シテ罰金損害賠償及ヒ裁判
費用ヲ負擔ス可シ

第二十八條 父母後見人及委託者ハ精神薄弱ノ幼者同居ノ
孤兒孀人及被託者ノ犯行ヲ狩獵罪ニ付キ民事上ノ責任
（總務司ノ附屬）
右ノ責任ハ民法第千三百八十四條ニ從ツテ規定シ損害賠償及
裁判費用ヲミテ適用スルニ止マリ決シテ要償ノ拘留ニ處ス

第三十九條 凡ソ本法ニ掲ケタル輕罪ニ係ル公訴ハ犯罪ノ行ハ
後ニアル時ヨリ起算シ三箇月以内ニ滿期免除ノ期限付キ十年間
第四〇條 第四章 總則
第五〇條 狩獵權ヲ執行ニ係ル本法ニ條款無任室以所有地等適

用也ナル者トス但王室ノ所有地ニ於テ狩獵罪ヲ犯シタル者ハ
第二章及ヒ第三章ニ依リ出訴及ヒ處刑ス可シ

第三十一條 千八百十二年五月四日ノ敕書及ヒ千七百九十年四
月三十日ノ法律ハ廢止ス

又本件ニ係ル法律勅書法令及ヒ決定書中本法ノ條款ニ抵觸ス
ル各條ハ自今之ヲ廢止ス

○狩獵警察ニ關スル法律ノ釋義

(獵狩權ノ執行) 本法第二條ニ記載シタル場合ヲ除クノ外ハ何人
ノリテ獵ヲ獵ルニ許スルヲ禁ズ又ハ允許セラルル網若クハ鳥笛ヲ以テ

又ハ工務學術若クハ娛樂ヲ目的トスルヲ獸類若クハ鳥類ヲ捕
獲スルヲ爲メテ若クハ問ハス狩獵免許狀ヲ携帯セシメテ狩獵ヲ

爲スコトヲ得ス故ニ州長ハ狩獵免許狀ヲ携帯セサル者ニ小鳥ノ全

部又ハ一部ノ狩獵ヲ允許スルヲ得ス若シ之ヲ允許スルニ於テハ
法律ニ背反スル者トス(千八百四十八年四月
凡シ狩獵ヲ爲ス者ハ必ズ狩獵免許狀ヲ携帯セサル可ラザルノ成

規ハ通常ノ方法ヲ用ヒテ狩獵スル時ト特許ヲ受ケタル方法ヲ用
ヒテ狩獵スル時トヲ問ハス其單純ナル獵手ニハ之ヲ適用セサル

者トス然レドモ獵手ハ固ク其個條ヲ守リテ決シテ銃器ヲ携帯可カ
ラズ

税金請取人ヨリ交付シタル狩獵免許稅ノ領收票ハ狩獵免許狀ニ
代用スルヲ得サル者ナリ故ニ狩獵罪ヲ檢證スル吏員ハ狩獵者ヨ

リ右ノ領收票ヲ開示セシムルヲ以テ足レリト爲ス可ラズ狩獵免
許狀下渡ノ意見書モ亦該免許狀ト均シク之ヲ看做スコトヲ得サル

者トス

垣籬及ヒ住宅) 本法第二條ニ掲ケタル例外ノ成規ハ住宅ニ屬シ且密接セル垣籬ヲ圍繞シテ全ク諸方ヨリノ交通ヲ絶テタル所有地ニ非_レ得_ル之ヲ適用スルヲ得サル者ナリ故ニ田舎ニアル所ノ不充分ナル垣籬ニシテ通常ノ方法ヲ以テ概シ其内部ニ立入ルヲ得_ル所有地ニハ素ヨリ之ヲ適用セサル者トス(千八百四十四年五月九日ノ司法省)

本法第二條ニ掲ケタル住宅ナル語ハ刑法第三百九十條ニ記スルカ如キ廣濶ノ意味ヲ有セ_ル故ニ第二條ヲ適用スルカ爲メニハ現其人_等住居セ_ルト雖モ實ニ人ノ住居ス可キ家屋ナルヲ必要トス而シテ其圍繞ノ如キハ家屋_等附屬物ト均シク之ヲ看做サ_ルル可_クラ_ス(千八百四十五年五月八日破毀法院ノ斷案) 破穴アル圍又_ハ隨意ニ立入ルヲ得_ルキ柵ハ連接シタル垣籬ニア

ラ_ス(千八百三十三年十一月) 幅四ビエード深サ二ビエードノ溝渠ヨリ成立セ_ル圍ハ隣地ト_テ交通ヲ全ク絶テタルモノニアラ_ス(千八百三十六年) 凡_レ舟筏ノ航行スルヲ得_ル河川ハ公路ニ准ス故ニ此等_ノ河川ヲ圍繞セ_ル小島ハ垣籬アル所有地ニアラ_ス(千八百三十二年) 然_レト_モ垣籬ハ生垣又ハ幅廣キ溝渠若クハ塙塀ヲ以_テ之ヲ造_ル得_ルモノトス (獵銃獵犬角聲及ヒ叫聲ヲ以_テスル狩獵) 本法第三條改正規則ノ目的ハ獵銃若クハ獵犬ヲ以_テスル狩獵又ハ角聲若クハ叫聲ヲ以_テスル狩獵_等各開閉時限ヲ區別スル權利ヲ州長ニ與_フルニ在_リトス故ニ州長ハ其必要ナ_リト思量スル時間獵犬ヲ以_テスル狩獵ヲ_ハ允許シ_テ獵銃ヲ以_テスル狩獵ヲ禁止スルヲ得_ル可_シ 法律上_ニ於_テ州長_ニ於_テ決定書ヲ制定スルニ當_リ州會ノ意見

ヲ聽ク可キヲ命ゼ天然ノ獵犬ヲ以テスル狩獵ノ解禁期限ヲ
獵銃ヲ以テスル狩獵ノ制禁期限後ニ至ルマテ延期スルヲ要スル
時ハ豫メ州會ニ諮問スルヲ宜トス(三十八百七十四年一月)

○第三條ニ依リ制定スル決定書

狩獵ノ解禁期日又ハ制禁期日ヲ定ムル所ノ決定書ニハ通俗ノ文
字ヲ用フルヲ要ス而シテ原野ト森林ト間圍繞アル地ト圍繞ナキ
地ト間逐走犬ト拘捕犬ト間及ヒ大獸ト小獸トノ間ニ一切區別ヲ
立ツ可ラズ
州長ハ各地所收納時ノ迅速ニ從ヒ其管内ノ各郡各縣各邑ニ於テ
狩獵開閉時限ヲ異ニ定ムルヲ得可シ然レモ此件ニ極メテ弊害
ヲ生シ易キ者ノハ深ク注意ヲ加ヘサル可ラズ
諸般ノ區別ヲ立テスルテ狩獵ノ開閉時限ヲ定ム可キノ成規ニ依

ラサルコトヲ得ルモノハ特リ客鳥及ヒ水禽ノ狩獵ニ限レリ州長ハ
勲モスレハ森林ニ於ケル狩獵ヲ制禁ス可キ時限ヲ怠リテ法律ノ
適用ヲ過ズモアリ宜ク注意セサル可ラズ
降雪ノ季節ニハ原野及ヒ森林ニ於テ法律ニ保護スル鳥獸ヲ獵殺
スルコト極メテ容易ナリ故ニ地面ノ積雪ニ覆ハレタル場合ニ於テ
一時狩獵ヲ停禁スル決定書ニモ亦決メテ原野ト森林ト間ニ區別
ヲ設ク可ラズ
邑長ハ收穫物ヲ保護スル爲メ葡萄摘收期限ノ終ルニ至ルマテ葡
萄園ニハ若干ノ距離ニ於テ狩獵ヲ爲スルヲ禁ズル決定書ヲ制定
スルノ特權アリ
州長ハ同一ノ決定書ヲ以テ狩獵解禁期限ト其制禁期限トヲ定ム
ルヲ得ズ若シ同一ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ムル時ハ唯リ法律ノ明

文ニ背戻スルハミナテス尙ホ其精神ニ背戻ス故ニ其解禁期限
 制禁期限トハ別々ニ決定書ヲ以テ之ヲ定ム其要知
 決定書ヲ行政全誌ニ登録スルハ本法第三條ニ定メタル公布ノ
 法式ニテラズ彼等行政全誌ニ載セズハ唯テ州長ト其部下諸官吏
 同ノ關係ヲ容易ニ知ルニ止マシテ其故ニ特獵ニ關スル州長
 ノ決定書ヲ公布スルニハ必ス其執行期日ヨリ十日以前ニ各邑ニ
 於テ送附スルヲ明讀及書之ヲ賸附スルヲ要ス其要知
 (特獵免許狀ノ下渡)ニ特獵免許狀下渡願書ニ印紙ニ記載シテ邑長
 並差出シ邑長ハ其意見書ヲ添ヘテ州長ニ送移スルヲ要ス但州
 長所ニテ州長ニ於テ其郡長ヲ經由シテ州長ニ送移ス可キ
 者トス
 特獵免許狀下渡願書ハ若シ其願人丁年者ナル時ハ直接ニ之ヲ差

出スヲ要ス故ニ其親族朋友タルノ名義ヲ以テ他人ヨリ差出シタ
 ル願書ハ一切之ヲ受理ス可ラス(千八百五十二年七月
 特獵免許狀下渡願書ハ願人ノ住居タル地若シハ其寄留タル地ヲ
 管轄スル邑長ニ差出スヲ得可シ然レモ其住所若シハ寄留所ヲ明
 確ニ申述スル者ニ非レバ一切免許狀ヲ下渡ス可ラス(千八百四
 月九日內務省訓令)
 若シ願人ノ住居セザル邑又ハ寄留セザル邑ノ邑長ヨリ本法第五
 條ニ於テ必要ト爲シタル意見書ヲ差出スコトアル時ハ唯リ願人ノ
 住居若シハ寄留スル邑ヨリ特獵免許稅ヲ奪フテ其權利ヲ害スル
 ニ止マシテ其意見書ノ信憑ヲ全ク消失セシムルノ不都合ア
 リ何トナレバ凡ソ他邑ノ邑長ハ特獵免許狀下渡願人ノ前科品行
 氣質等ヲ確知シ能ハサルカ爲メニ州長及ヒ郡長ヲシテ願人ノ果

シテ免許狀ノ下渡ヲ得ルニ必要ナル資格ヲ具有スル者ナルヤ否
 ヤヲ疑ハシムルハ虞アリバナリ
 故ニ州長ハ毎年其管内ノ各邑長へ諭告シテ他管ニ住居シ若クハ
 寄留スル狩獵免許狀下渡願人ノ爲メニ意見書ヲ差出シテ法律ニ
 違背シ且其願人ノ現ニ住居シ若クハ寄留スル邑ヨリ訴求ヲ受ク
 ル等ノ不都合ヲ釐サシムル様深ク注意セシム可シ(千八百五十二年
 附令)
 郡長及ヒ邑長ヨリ願書ヲ添ヘテ差出ス所ノ意見書ニハ唯々漠然
 小狩獵免許狀ヲ下渡スヲ得可キ事又ハ其下渡ス可ラザル事ノミ
 ナリ附令不可ラス若クハ免許狀ヲ下渡スヲ得ル時ハ其願人ノ之ヲ下渡
 スヲ得ザル部類中ニ於テカカルヲ確認シタル旨ヲ記載シ又免許
 狀ヲ下渡スヲ得サル時ハ其願人ノ之ヲ下渡スヲ得サル部類中ニ

アルヲ確認シタル旨ヲ明記ス可シ
 郡長及ヒ邑長ハ其意見書ニ狩獵免許狀下渡願人ノ地主タルト
 否ヲ附令ト記載スルニ及バズ而シテ又州長ニ於テモ免許狀ヲ
 下渡スル前ニ其願人ヨリ地主タルノ證明書ヲ差出サシメ及ヒ他
 人ノ所有地内ニ於テ狩獵スルノ承諾書ヲ差出サシムルヲ得ス
 (千八百四十四年五月九日內務省附令)
 凡ソ願人ノ身分ハ年々ニ變遷スルモノナレバ昨年ハ免許狀ヲ下
 渡スヲ得タル者モ今年ハ之ヲ下渡スヲ得ザルコトアリ故ニ昨年免
 許狀ヲ得タル者ヨリ更ニ其下渡願書ヲ差出シタル時ト雖ヒ亦
 必ズ之レニ邑長若クハ郡長ノ意見書ヲ添ヘテ州長ニ送移スルヲ
 要ス又州長ハ假令ヒ善ク其身分ヲ知リタル被治者タリト右ノ法
 式ニ依ラシメザルコトヲ得ズ若シ邑長ニ於テ其意見書ヲ差出スル

拒ミタル時ハ千八百三十七年七月十八日ノ法律第十五條ニ從ヒ
州長ヨリ代理人ヲ任命シテ意見書ヲ差出サシム可シ(千八百五十二
年七月二十
日內)

狩獵免許狀下渡願書ノ本法第五條ニ定メタル意見書ト共ニ州長
ノ手ニ到達シタル時ハ成ル可ク速ニ之ヲ許否ス可シ(上全)

州長ハ狩獵免許狀ニ其之ヲ送達スル日子ヲ記ス乎或ハ其之レニ
手署シタル日子ヲ記ス可シ決シテ税金請取人ヨリ領收票ヲ交付
シタル日子ヲ記ス可ク其日子ハ總テ本字ニテ記スヲ要ス(八千
百五十三
年二月二
十日內)

狩獵免許狀下渡ノ當日ト其滿期ノ當日トハ有効期限内ニ計算セ
サル者ナリ故ニ今年ノ十二月二十六日ニ下渡シタル免許狀ハ翌
年ノ十二月二十六日ニ至ルモ尙ホ其効ヲ失ハザル者トス(千八百
四十六年
十二月二
十六日)

狩獵免許狀遺失シタル者ハ成規ノ代金ヲ納メテ更ニ免許狀ヲ

請ヒ受ケタル後ニ非サレバ狩獵スルヲ得ス凡ソ州長ヨリ交付シ
タル證書ノ如キハ免許狀ニ代用スルヲ得ザル者ナリ故ニ州長ハ
右ノ弊害ヲ豫防スル爲メ決シテ願人ニ免許狀ノ副本及ヒ證書等
ヲ下渡ス可ラス然レモ州廳ヨリ送付シタル免許狀ノ本人ニ到達
セサルコトアル時ハ廳中ノ各局部及ヒ驛遞局ニ搜索ヲ命ジ且其願
人ノ實ニ之ヲ領收セザリシコトヲ確認シタル後ニ無代價ニテ第二
ノ免許狀ヲ下渡スコトヲ得ベシ又州長ハ第二ノ免許狀下渡願書ニ
第一ノ免許狀ヲ領收セザリシ旨ヲ證明スル邑長ノ證書一通ヲ添
ヘテ差出ス可キコトヲ命ジ且其管内ノ各邑長ト憲兵司令官トニ免
許狀ノ紛失シタル旨ヲ通知シ其拾得者ヲシテ之ヲ使用スルヲ得

サラシム可シ(千八百五十一年七月令)

○郡長ヨリ狩獵免許狀ヲ下渡スヲ得可キ事(千八百六十年七月令)
郡長ハ法律ニ於テ免許狀ヲ下付テ否拒スルヲ得可キヲ定メタル部類中ニアラザル管下住民ヨリ成規ノ體裁ヲ以テ作リタル願書ヲ差出スヨリ於テハ狩獵免許狀ヲ下渡スヲ得可シ
郡長ハ州長ノ許可ヲ受テ其代理者タル名義ヲ以テ狩獵免許狀ニ署名スヘシ

州長ハ各郡長ヨリ狩獵免許狀ヲ運送ナシ其願人ニ下渡スヲ得セシムルカ爲メ常ニ免許狀用野紙若干葉ヲ備ヘ置カシムルニ必要ナル規程ヲ設テ又郡長ハ一定ノ體裁及ヒ期限ニ於テ其下渡シタル狩獵免許狀ノ葉數ヲ州長ニ報告スヘシ
○狩獵免許狀ハ税金ヲ附托シタル後ニ非レハ下渡ス可ラサ

ル事(千八百四十九年七月令)

凡ソ狩獵免許狀ノ下渡ヲ得シテ欲スル者ハ政府ニ屬スル十五法ノ税金ト邑ニ屬スル十法ノ税金ヲ豫メ税金請取人ニ附托スルヲ要ス故ニ税金請取人ノ領收票ヲ添ヘステ差出シタル狩獵免許狀下渡願書ハ一切之ヲ受理ス可ラズ
州長ヨリ下渡ス所ノ狩獵免許狀ハ收稅長ニ渡スヲナシ速ニ本人ニ交付ス可キ命令書ヲ添ヘテ直接ニ之ヲ願人ノ住居スル地ヲ管轄スル邑長ニ送付ス可シ然レモ亦州長ハ收稅長ヲシテ自カラ税金請取人ノ收入金ヲ監督シ又ハ收稅吏ヲシテ之ヲ監督セシムルノ便利ヲ與フルカ爲メ前月中ニ下渡シタル狩獵免許狀ノ明細帳ニ願人ヨリ願書ト共ニ差出セシ所ノ税金領收票ヲ添ヘ毎月之ヲ收稅局ニ送付スルヲ要ス

願書ヲ却下スル場合ニ於テハ州長ハ其決定書ヲ收稅長ト邑長トニ送付シ收稅吏ヲシテ直チニ其税金ヲ本人ニ返還ス可キ旨ヲ税金請取人ニ命令セシム可シ

税金及附托券證明スル税金請取人ノ領收票ハ其日附ノ月内ニ差出スニ非サレハ狩獵免許狀ヲ受クルノ効ナキ者トス

右ノ期限内ニ免許狀ノ下渡ヲ出願セザリシニ依リ前キニ附托シタル税金ノ返還ヲ請求セシト欲スル者ハ其請求書ニ免許狀下渡願書ヲ差出スヲ得サリ

理由ヲ明記シ所轄邑長ノ證書ヲ添ヘテ之ヲ州長ニ差出ス可シ

附托税金ノ下戻ハ決定書ヲ以テ之ヲ許否ス而シテ其決定書ノ寫ハ收稅長ニ送移シテ或ハ下戻サ、ル税金ノ徵收證ニ供用セシメ或ハ税金下戻ノ允許證ニ供用セシムル者トス但税金下戻ヲ請求

スルノ權利ハ何レノ場合ニ於テモ其附托當日ヨリ起算シ三箇月以外ニ及ボスヲ得ス

○狩獵免許狀用罫紙ノ供給(千八百六十年七月十一日ノ勅書摘要)

第一條 登記局ハ來ル十月一日ヨリ本書附録ノ離形ニ準據シ獵銃携帶免許狀用罫紙ヲ供給ス可シ

第二條 獵銃携帶免許狀用罫紙ハ全國一般同様ノモノヲ用フ而シテ該罫紙ハ巴里ニ於テ印刷シ其周圍ニハ一般警察ノ四字ヲ黑書ス可キ者トス

第三條 獵銃携帶免許狀ハ割符帳ニ製ス可キ者トス

第十條 登記局ハ各州ノ州長ニ獵銃携帶免許狀帳ヲ送付ス可シ

第十一條 獵銃携帶免許狀帳ノ代金ハ各州ノ治所ニ在ル登記稅徵收吏ニ仕拂フヘシ

第十二條 獵銃携帯免許狀ノ効力ハ其下渡ノ當日ヨリ起算シ一箇年ヲ以テ期限トス

第十三條 獵銃携帯免許狀ノ代金ハ三十法ト定ム但用紙料印紙料及ヒ送達料モ亦此ノ内ニ包含スル者トス

〔原註〕獵銃携帯免許狀ノ代金ハ千八百十六年四月二十八日ノ法律ヲ以テ十五法ト定メ千八百四十四年五月三日ノ法律ニ於テ二十五法ニ増加シ又千八百七十一年八月二十三日ノ法律ニ於テハ三十法ニ増加セリ而シテ千八百七十二年十二月二十日ノ法律ヲ以テ復々之ヲ二十五法ニ減シタリ

○憲兵卒及ヒ警人ニ授與スル賞與金(千八百四十五年五月五日ノ詔書)

第一條 狩獵警察ニ關スル千八百四十四年五月三日ノ法律ニ係ル犯罪ヲ檢證シタル憲兵卒林警人野警人漁警人及ヒ各個人ニ屬スル宣誓シタル警人ニハ左ノ割合ヲ以テ賞與金ヲ授與スヘシ

第一 第十一條ニ掲ケタル犯罪ヲ檢證シタル者八法

第二 第十二條及ヒ第十三條ノ第一項ニ掲ケタル犯罪ヲ檢證シタル者十五法

第三 第十三條ノ第二項ニ掲ケタル犯罪ヲ檢證シタル者二十五法

第二條 賞與金ハ犯人ニ宣誓シタル各罰金中ヨリ控除シ通常ノ會計規則ニ從ヒ登記稅徵收吏ヨリ之ヲ仕拂フ者トス

第三條 (千八百五十二年八月十八日ノ敕書ヲ以テ左ノ如ク改正ス)登記稅徵收吏ハ邑ゴトニ千八百四十四年五月三日ノ法律ヲ犯シタルガ爲メニ宣誓サレタル罰金ニ係ル徵收簿一冊ツヽヲ設備シテ毎年一回之ヲ精算ス可シ

又簿記稅徵收吏ハ徵收シタル罰金中ヨリ賞與金及ヒ徵收費(分)ヲ控除シテ其殘金ヲ犯罪ノ行ハレタル邑ニ計算ス可シ但精算ノ時ニ至リ費用超過スルコトアルモ邑ニ對シテ其不足金ヲ要求セズ翌年度分ヨリ之ヲ繰上ク可シ

又無効ニ屬シタル訴訟ノ費用ハ千八百二十三年十二月三十日ノ證書第六條ニ從ヒ辨償ス可キ者トス

第四條 數名ノ吏員ニテ一通ノ證書ヲ作リタル時ハ一人分ノ賞與金ヲ授與スルコ限ル可シ

第五條 該證書ハ千八百四十四年五月三日ノ法律ニ從ヒ既ニ言渡シタル罰金ニモ適用ス可キ者トス

○各州應ニ狩獵免許狀用野紙ノ充備(千八百五十五年六月二十六日大藏省訓令)
第一 毎年十二月ヨリ七月ニ至ル迄ハ印紙稅徵收吏ヨリ各州ノ

州長へ其請取書ニ照シテ狩獵免許狀用野紙二十葉ツ、ヲ交付

シ又八月ヨリ十一月ニ至ル迄ハ二百葉以下ヲ交付スルコトヲ得ヘシ但印紙稅徵收吏ニ於テ收受シタル州長ノ請取書ハ州長

ニ交付シタル狩獵免許狀用野紙ト全一ニ看做ス可キ者トス
第二 州長ハ毎月末ニ又之ヲ要スル時ハ數回狩獵免許狀用野紙願書ニ添ヘテ願人ヨリ差出シタル稅金請取人ノ領收票ヲ印紙稅

徵收吏ニ交付セシム可シ

第三 使用セザリシ狩獵免許狀用野紙ハ毎年十二月三十一日ニ之ヲ印紙稅徵收吏へ返還シ此期限ニ於テ徵收吏ノ作ル可キ調書へ其存在高ヲ登記スルノ便ニ供ス可シ

第四 十二月中ニ州應ニアル稅金請取人ノ領收票ハ前項ニ記シタル免許狀用野紙全時ニ之ヲ印紙稅徵收吏へ交付シ徵收吏

ニ於テ年内ノ支出高ヲ決算スルノ便ニ供スヘシ
 十二月三十一日ノ決算ヲ準備シ之ヲ迅速ナラシムルガ爲メニ
 ハ十一月下旬カ若クハ十二月初旬即チ之ヲ詳言スレハ狩獵免
 許狀用野幣ノ充備ヲ二十葉ニ減スル期限ニ豫メ之ヲ精算スル
 ヲ良トス故ニ此期限ニ於テ州廳ニ殘在セル狩獵免許狀用野幣
 ハ總テ印紙稅徵收吏ニ展示シ而シテ其免許狀用野幣ノ不足代
 金ハ直チニ正金ヲ以テ徵收吏ニ仕拂フヘシ但十二月中ニ紛失
 シタル免許狀用野幣ノ代金ハ其三十一日ニ至リ之ヲ仕拂フ可
 キ者トス

誤寫汚損等ノ爲メ州長ノ姓名ヲ手署スル以前ニ廢紙トナリタ
 ル狩獵免許狀用野幣ハ之ヲ引換ユルコトヲ得ヘシ然レトモ此
 場合ニ於テハ印紙庫看守人ヲシテ計算帳中ヨリ損番トシテ其

葉數ヲ減却セシメサル可ラス

登記稅局ノ官吏ハ狩獵免許狀ノ計算ニ係ル秩序ヲ保持スルカ
 爲メ其必要ナリト思量スルゴトニ州廳ニ充備スル狩獵免許狀
 用野幣ノ葉數ヲ檢査スルコトヲ得ヘシ

○狩獵免許狀下渡ノ否拒

州長ハ收稅簿上ニ姓名ヲ登記セラレサルノ一事ヲ以テ願人ニ狩
 獵免許狀ノ下渡ヲ否拒スルニ十分ナル一個ノ理由ト爲スコトヲ
 得ルヤ否ヤヲ調査セサルヘカラス然レトモ各願人ヘ收稅簿上ニ
 登記セラレタル者ナルコト又ハ收稅簿上ニ登記セラレタル者ノ
 子タルコトヲ證明スヘキ旨ヲ命スルカ如キハ苛嚴ニ過クルノ恐
 レアリ凡ソ狩獵免許狀下渡ノ許否ハ願人ノ品行上ニ就テ蒐集シ
 タル書類ニ據テ之ヲ決ス可キ者ナリ故ニ右ノ法式ハ州長ニ於テ

收税簿上ニ登記セラレサルノ一事ヲ以テ願人ニ免許狀ノ下渡ヲ
 否拒スルノ理由ト爲サント欲スル時ニシテ其登記事件ニ疑點ノ
 存スル場合ニ之ヲ命スルニ限ル可シ(千八百四十四年五月九日内務省訓令)
 千八百四十四年五月三日ノ法律第六條ニ列記シタル景況ハ行政
 官ニ於テ狩獵免許狀ノ下渡ヲ否拒スルニ足ル可キ一個ノ考接ト
 爲シタルモノニ過キスシテ其下渡ヲ否拒セサル可ラサルノ約款
 ト爲シタルコトハ非サルナリ故ニ免許狀下渡ノ許否ヲ決定スルノ
 理由ハ重モ願人ノ受ケタル裁判宣告ニ係ル景況ト其品行上ニ
 就テ蒐集シタル書類中ヨリ之ヲ引出ス可キモノトス
 然レトモ州長ハ狩獵免許狀下渡願人ヘ右ノ法律第六條ニ列記シ
 タル位置ニ在ラサルコトヲ辨明ス可キ旨ヲ命スルヲ得ス凡ソ裁
 判宣告書ノ證據ヲ取ルハ行政官ノ權内ニアルモノナリ抑州廳ニ

於テ治罪法第六百條及ヒ第六百一條ニ循ヒ上等裁判所及ヒ下等
 裁判所ニテ爲シタル裁判宣告簿ノ謄本ヲ受クルハ素ヨリ此目的
 ニ外ナラス故ニ此宣告簿中ヨリ千八百四十四年五月三日ノ法律
 第六條及ヒ第八條ニ掲ケタル場合ニ係ル裁判宣告ヲ拔萃シテア
 ベセノ順序ニ從ヒ二個ノ簿冊ニ之ヲ登記スルヲ要ス但其一冊ニ
 ハ狩獵免許狀ノ下渡ヲ否拒スルコトヲ得可キ裁判宣告ヲ登記シ
 又其一冊ニハ狩獵免許狀ノ下渡ヲ否拒スルコトヲ要スル裁判宣
 告ヲ登記スル者トス而シテ若シ其宣告簿中ニ管内ニ住居セサル
 者ヲ登記シアル時ハ州長ヨリ本人ノ住居スル地ヲ管轄スル州長
 へ其裁判宣告ヲ通牒セサル可ラス
 州長ハ裁判宣告簿ヲ受領シタルヨリ遅クトモ十五日以内ニ右ニ
 記シタル二個ノ簿冊ヲ造リテ之ヲ内務省ニ送付ス可シ若シ此簿

冊ノ紛失シタルカ爲メ更ニ其謄本ヲ裁判所ニ請求スルヲ要スル時ハ十參ノ償金ヲ書記局ニ拂フ可シ但該償金ハ州廳ノ前拂費中ヨリ支出ス可キ者トス(千八百四十四年七月十二日ノ内務省訓令)

州長ハ各狩獵免許狀下渡願人ヲシテ十六歳以上ナル旨ヲ辨明セシムルニ及ハス凡ソ年齢ノ如キハ一目瞭然タルモノニシテ之ヲ詐稱スル者ハ極メテ稀ナリ故ニ其願人ノ年齢十六歳以下ナルヲ推察スル場合ニ非サレハ之レニ其出產證書ヲ差出スヘキ旨ヲ命スヘカラス然レハ滿十六歳以上二十一歳以下ノ限界中ニ在リト推察スル幼者ニハ必ス出產證書ヲ差出サシメ法律上ニ指定セラレタル者ヨリ其幼者ノ名ヲ以テ願書ヲ差出サシム可シ(千八百四十四年七月十二日ノ内務省訓令)

州長ハ野警人、林警人及ヒ漁警人ニ狩獵免許狀ノ下渡ヲ禁シタル

千八百四十四年五月三日ノ法律第七條ノ成規ヲ保固スルカ爲メニ此等警人ノ姓名簿ヲ造リテ之ヲ保存セシム可シ(千八百五十二年七月二十二日ノ内務省訓令)

一個人ニ屬スル所ノ警人ハ右ノ法律第七條ニ列記シタル警人中ニ包含セス故ニ一個人ニ屬スル警人ニハ狩獵免許狀ノ下渡ヲ拒スルコトヲ得ス然レトモ其本人ノ屬スル所有主ヨリ允許ヲ得タル旨ヲ辨明セシムルヲ必要トス(千八百四十四年五月九日ノ内務省訓令)

時トシテハ野警人又ハ林警人ニシテ一個人ニ屬スル警人ヲ兼務スル者ヨリ一個人ニ屬スル警人タルノ名義ヲ以テ狩獵免許狀ノ下渡ヲ願出ツルコトアリ然レハ右ノ法律第七條ニ於テハ右様ノ區別ヲ立ツルコトヲ許サ、ルニ依リ此等ノ者ニハ一切免許狀ヲ下渡スコトナカル可シ

若シ其願人曩キニ狩獵罪ヲ犯シテ刑ノ旨渡ヲ受ケシ者ナル時ハ其旨渡ヲ履行シタル旨ヲ證明セシムルヲ要ス而シテ又其刑ヲ輕減セラレタル時ハ其旨渡ヲ履行シタルモノト均シク之ヲ看做ス可シ(千八百四十四年五月九日內務省附令五)

又極メテ稀有ノ事トハ雖モ法律上ニ定メタル約款ヲ具有スル婦女ヨリ狩獵免許狀ノ下渡ヲ願出ツルコトアリ該件ニ付テハ屢上級官衙ニ伺出タリシモ毎ニ其願書ヲ却下スルノ理由ナキ旨指令セラレタリ

法律上ニハ佛蘭西國內ニ住居スル外國人ニ狩獵免許狀ノ下渡ヲ禁スルノ明文ナシ然レトモ內國人ト外國人トハ必ス之ヲ區別セサル可ラス
久シク佛蘭西國ニ住居スルコヨリ佛國官吏ニ其品行端正ナルコ

トヲ確知セラレタル外國人ニシテ法律上ノ約款ヲ具有スル者ニハ狩獵免許狀ヲ下渡スコトヲ得可シ然レトモ國境ニ在リテ常ニ定マリタル住所ヲ有セサルカ爲メ佛國官吏ニ其品行ヲ熟知セラレサル外國人ニハ狩獵免許狀ヲ下渡ス可ラス此件ニ付テハ外務卿閣下モ余ト全説ナリ

又州長ハ定マリタル住所ヲ有セスシテ佛蘭西國ニアル外國人又ハ定マリタル住所ヲ有スルト雖モ政事ニ係ル景況ニ因リ警察ノ監視ニ付セラレタル外國人ニハ狩獵免許狀ヲ下渡ス可ラス
一旦州長ヨリ狩獵免許狀ヲ下渡シタル上ハ假令ハ最初ニ善ク其願人ノ位置ヲ知リタルナラハ免許狀ノ下渡ヲ拒ム可カリシ情狀アル者ト雖トモ妄リニ其引上ケテ命スルコトヲ得ス然レトモ千八百四十四年五月三日ノ法律第七條及ヒ第八條ニ從ヒ免許狀ヲ

下渡ス可ラサル者ニ過ツテ之ヲ下渡シタル時ハ無効ノモノト看
 做サ、ル可ラス故ニ若シ州長ニ於テ誤謬ヲ發見シタル時ハ直チ
 ニ決定書ヲ以テ其取消ヲ言渡シ邑長ト憲兵司令官トニ其旨ヲ通
 牒ス可シ而シテ此場合ニ於テハ其景況ニ因リ狩獵免許稅返還ノ
 許否ヲ決スルヲ要ス但其願人全ク免許狀ヲ得ルコト能ハサルノ
 位置ニアルコトヲ知ラスシテ之ヲ受ケ未タ使用セサル前ニ引上
 ケラレタル時ハ速ニ其税金ノ返還ヲ命ジ又其願人免許狀ヲ得ル
 コト能ハサルノ位置ニアルコトヲ知リナカラテ故意ニ官吏ヲ欺キ
 テ之ヲ受ケ既ニ使用シタル後ニ引上ケラレタル時ハ其税金ヲ沒
 收ス可キ者トス(千八百五十年七月
 二十八日內務省訓令)

〔例外狩獵法〕千八百四十四年五月三日ノ法律第九條ニ於テハ晝
 間ニ獵銃若クハ獵犬ヲ用ヒ又ハ角聲若クハ叫聲ヲ發シテ狩獵ス

ル事ト「ヒュレ」一種ノ及ヒ網罟ヲ以テ野兎ヲ狩ル事トヲ除ク外其他
 各種ノ方法ヲ用ヒテ狩獵スルヲ嚴禁ス故ニ往昔ノ法律ニ允許シ
 タル鳥笛係蹄媒鳥等ノ如キ凡ソ鳥獸ヲ捕獲シ又ハ誘寄スル所ノ
 諸器械モ亦悉ク此制禁中ニ包含スルモノナリ然レトモ銃ヲ以テ
 スル銃獵ト獵手ヲ以テスル狩獵トハ法ニ適シタル者トス(千八百
 五十年十一月二十九
 日破毀法院斷案)

又第九條ニ於テハ夜間ニ狩獵スルヲ禁シ及ヒ收穫物ヲ荒損シ且
 鳥獸ヲ獵殺スルノ虞アリトシテ長脚狗ヲ使用スルヲ禁シタリ凡
 ソ夜間ニ爲シタル狩獵ノ實否ヲ審判スルハ裁判所ノ權内ニアリ
 而シテ日出又ハ日没ニ於テ獵小屋ニテ爲シタル狩獵ニ付テハ屢
 ヲ苦情ノ發スルコトアリ故ニ司法警察官ハ假令ヒ疑シキ場合ト雖
 モ必ス調書ヲ作り之レニ其時刻及ヒ氣壓ノ景況ヲ明記シテ裁判

官ニ送移セサル可ラス

客鳥及ヒ水禽ニ係ル例外狩獵法ハ州長ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ムルモノナリ故ニ其決定書ニ於テ明許セサル客鳥ノ獵具ハ總テ應禁ノ獵具ト看做サル可ラス又水禽ノ狩獵ハ州長ノ決定書ニ於テ客鳥ノ種類ヲ變更シタル時ニ非サレハ例外ノ方法ヲ用ヒテ之ヲ爲スコトヲ許サス但允許セラレタル獵具ヲ以テ偶然地鳥チリヤク、ドバイ、常ニニ住ム鳥ヲ捕獲スルノ所爲ハ狩獵罪ヲ組織スルモノニアラス然レトモ其鳥類ハ現場ニ於テ之ヲ消費スルヲ要ス決シテ他所ニ輸送スルヲ許サス凡ソ客鳥水禽ノ狩獵ハ免許狀ヲ請ヒ受ケヌシテ之ヲ爲スコトヲ得サル者ナリ

千八百七十四年一月二十四日ノ法律ハ千八百四十四年五月三日ノ法律第九條ニ二個ノ改正ヲ加ヘタリ第一ノ改正ハ其第三條ニ

於テ獵銃若クハ獵犬ヲ用ヒ又ハ叫聲若クハ角聲ヲ發シテ爲ス所ノ各種ノ狩獵開閉時限ヲ異ニスルノ權利ハ州長ニ與ヘタルヨリ生スル結果ニシテ又第二ノ改正ハ例外ノ方法ヲ用ヒテ狩獵スルコトヲ許シタル客鳥ノ名稱表ヲ制定スルノ權利ハ州長ニ與ヘタルモノナリ

州長ニ於テ客鳥狩獵ノ爲メニ特別ノ獵具ヲ使用スルコトヲ許サント欲スル時ハ必ス州會ノ意見ヲ聽キ且千八百六十一年八月二十日ノ内務省訓令ニ掲ケタル客鳥名稱表ニ據ラサル可ラス又州長ニ於テ耕作ニ有益ナル鳥類ヲ保護シテ其繁殖ヲ謀ラント欲スル時ハ州會ノ意見ヲ聽カズシテ獵銃及ヒ獵犬ヲ以テスルヲ除ク外其他ノ方法ヲ用ヒテ獵銃ヲ禁シ且狩獵開閉時限中ト雖モ昆虫ヲ啄ムモノト認メタル鳥類ノ捕獲ヲ禁スルコトヲ得

可

○客鳥及ヒ水禽ノ狩獵、養兔場ノ兔ノ運送及ヒ販賣、小鳥ノ保
護並ニ惡獸及ヒ害禽ノ驅除ニ關スル千八百六十二年一月
三十一日ノ巴里府警察法令

第一條 塞納州内ニ於テハ狩獵解禁時限中ニ非サレハ陸地ノ客
鳥ヲ狩獵スルコトヲ許サス但此狩獵ハ晝間ニ獵銃ヲ以テスル
ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得サル者トス

第二條 水上ノ客鳥ニ限り獵銃及ヒ舢舨ヲ以テスルニ於テハ何
レノ時季ヲ問ハス之ヲ狩獵スルコトヲ得可シ

第三條 所有者、使用者又ハ小作人ハ自己ノ地面内ニ於テ何レノ
時季ヲ問ハス銃器ヲ以テ野猪、狼、狐、臭猫、狸、野猫、田鼠「ビュトツリ」
ノ類ヲ打テ又ハ「ラゼー」以外ノ絲蹄ヲ以テ之ヲ捕ルコトヲ得可

シ

第四條 前條ノ約款ヲ守ルニ於テハ假令ヒ狩獵制禁時限中ト雖
モ絲蹄ヲ用ヒテ左ノ害禽ヲ驅除スルコトヲ得可シ

鵲、鴉、鷹、「ホベロウ」、「エメリヨン」、「クレセレー」、「バルビユザル」、
「リビアチール」、「ピガルギ」、「エペルビエール」、「鳶」、「ビユザル」、
色鴿、黑色小鳥及ヒ林鳩

第五條 「ヒュレー」兔ヲ狩ルニ用及ヒ網罟ヲ使用スルニ於テハ狩獵
制禁時限中ト雖モ兔ヲ捕獲スルコトヲ得可シ又養兔場ノ兔ハ
狩獵制禁時限中タリトモ従前ノ通り之ヲ販賣及ヒ街賣スルコ
トヲ得可シ

第六條 前第三條及ヒ第四條ニ於テ捕獲スルコトヲ允許シタル
惡獸害禽ハ何レノ場合ト雖モ狩獵制禁時限中ニ之ヲ販賣ニ供

シ又ハ賣買シ或ハ街賣スルコトヲ得ス

第七條 各種ノ網罟、絲蹄、鳥笛、煤鳥「ラセイ」ノ類、「コレ」上及ヒ其他

之レニ類似スル獵具ヲ使用スルハ嚴禁トス

時季ノ如何ニ問ハス右ニ列記シタル獵具ヲ用ヒテ小鳥狩ヲ爲

スコトヲ禁ス但雲雀ヲ捕獲スルニ使用スル所ノ鏡ハ應禁ノ獵

具ト看做サス

第八條 鳥類ノ卵巢ヲ取り及ヒ毀ツコトヲ禁ス但前第四條ニ列

記シタル鳥類ノ卵巢ハ此限ニ在ラス

第九條 地面ノ積雪ニ覆ハル、場合ヨハ平原及ヒ森林ニ於テ狩

獵スルハ嚴禁トス

本條ノ成規ハ池沼、河川、運河ニ於ケル水禽ノ狩獵及ヒ惡獸害禽

ノ驅除ニ適用セサル者トス

第十條 何人タリトモ法律ニ從ヒ請ヒ受ケタル狩獵免許狀ヲ携

帶セシテ客鳥及ヒ水禽ヲ狩獵スルコトヲ得ス

所有者、使用者又ハ小作人ハ假令ヒ銃器ヲ以テスル時ト雖モ其

地面ヲ荒損スル所ノ鳥獸ヲ驅除スルカ爲メニ狩獵免許狀ヲ請

ヒ受クルニ及ハズ

第十一條 食用鳥獸ノ性質ヲ有スル惡獸害禽ニシテ前條ノ場合

ニ於テ捕獲シタルモノ又ハ特別決定書ヲ以テ命ジタル驅除ノ

場合ニ於テ捕獲シタルモノハ現場ニ於テ之ヲ消費ス可シ決シ

テ之ヲ販賣及ヒ街賣スルコトヲ得ス

第十二條 惡獸害禽ヲ驅除スルニテ口實トシテ制禁時限中ニ狩獵

ヲ爲シタル者又ハ狩獵免許狀ヲ攜帶セシテ狩獵ヲ爲シタル

者ハ法律ニ從ツテ出訴セラル可シ

第十三條 千八百五十八年二月十七日ノ警察法令及ヒ同年七月二十五日ノ警察法令ハ廢止ス

第十四條 該法令ハ印刷シテ公布及ヒ貼附ス可シ

○狩獵制禁ニ關スル千八百八十四年一月六日ノ巴里府警察法令

第一條 來ル一月二十七日々曜日ノ日没限リ塞納全州内ニ於テ狩獵ヲ制禁ス故ニ翌二十八日月曜日ヨリ更ニ解禁ノ命令ヲ下スニ至ルマテハ狩獵スルヲ得ス

又二十八日ヨリハ巴里府並ニ田邑ニ於テ獵ニテ獲タル鳥獸ヲ購求シ販賣シ運搬シ販賣ニ供シ及ヒ街賣スルヲ嚴禁トス然レトモ鵠ノ狩獵ハ來ル四月三十日マテ之ヲ延期ス可シ

第二條 狩犬ヲ用ヒ又ハ角鹿及ヒ叫聲ヲ發シテ爲ス所ノ獵狩ハ

四月三十日ヨリ之ヲ制禁ス

第三條 前二條ノ成規ニ違背シタル者ハ當該裁判所ニ呼出サレ且法律ニ從ツテ處分セラル可シ

第四條 養兔場ノ兔ハ何レノ時季ヲ問ハス之ヲ販賣シ及ヒ街賣スルコトヲ得可シ然レトモ狩獵制禁時限中ニ此兔ヲ捕獲センヲ欲スル者ハ千八百四十四年五月三日ノ法律第九條ニ從ヒ豫メ許可ヲ受ケサル可ラス

第五條 臨時狩獵ヲ許可シタル客鳥及ヒ水禽ハ羽毛ノ儘マニ非サレハ之ヲ販賣シ購求シ街賣シ運搬シ若クハ販賣ニ供スルコトヲ得ス

第六條 内國又ハ外國ニ於テ屠殺シタル野猪ハ狩獵制禁時限中ト雖モ許可ヲ受ケスシテ之ヲ販賣シ運搬シ及ヒ街賣スルコト

ヲ得可シ

七四〇

第七條 各種ノ網罟、絲蹄、鳥笛、煤鳥、ヲセイノ類「コレ」上及ヒ其
他之レニ類似スル獵具ヲ使用スルハ嚴禁トス
時季ノ何如ヲ問ハズ右ニ列記シタル獵具ヲ用ヒテ小鳥狩ヲ爲
スニコトヲ禁ス

第八條 鳥類ノ卵巢ヲ取り及ヒ毀ツコトヲ禁ス但千八百六十二
年六月三十一日ノ警察法令第四條ニ記シタル害禽ノ卵巢ハ此
限ニ在ラス

第九條 該法令ハ印刷シテ公布及ヒ貼附ス可シ

○狩獵解禁ニ關スル千八百八十四年八月十二日ノ巴里府警

察法令

第一條 千八百八十四年八月三十一日々曜日ヨリハ塞納州内ニ

於テ狩獵ノ制禁ヲ解ク可シ

右ノ時限前ニハ何様ノ口實ヲ以テスルモ狩獵スルコトヲ禁ス

第二條 凡ソ狩獵罪ヲ犯シタル者ハ十六法以上百法以下ノ罰金

ニ處セラル可シ若シ所有主ノ承諾ヲ得ヌ未タ收納ノ終ラサル

土地ニ於テ狩獵シタル時ハ其罰金ヲ右ノ二倍ニ至ルマテ加重

スルコトヲ得可シ

第三條 凡ソ狩獵者ハ必ス狩獵免許狀ヲ携帯スルヲ要ス而シテ

憲兵卒、野警人、林警人及ヒ其他ノ吏員ヨリ求メテ受ケタル時ハ

何時タリトモ之ヲ開示セサル可ラス

第四條 地面ノ積雪ニ覆ハル、場合ニハ平原及ヒ森林ニ於テ狩

獵スルヲ嚴禁トス

本條ノ成規ハ池沼、河川、運河ニ於ケル水禽ノ狩獵及ヒ惡獸害禽

七四一

ノ驅除ニ適用セサル者トス 千八百六十二年一月

第五條 該法令ニ違背スル罪ハ證告書ヲ以テ之ヲ檢證シ其犯則者ヲ當該裁判所ニ出訴ス可シ

第六條 該法令ハ印刷シテ公布及ヒ貼附ス可シ

○處分手續

第一項 狩獵ニ關スル法律ノ執行ヲ監察スル警察官又ハ公力吏ハ銳意鄭重ニ其職務ヲ行フヲ必要トス

第二項 狩獵罪ヲ檢證スル警察官ハ必ス其徽章ヲ着クルヲ要ス

第三項 應禁ノ鳥獸ヲ穿鑿スルカ爲メ家宅搜索ヲ行フ警察官ハ其場所ヲ視察セシメ又ハ其鳥獸ヲ押收運搬セシムル爲メニ數名ノ公力吏ヲ伴フヲ良トス

第四項 押收シタル鳥獸ハ其地ノ治安裁判官又ハ邑長ノ命令書ト此事ニ係ル調書トニ依ルニ非サレハ之ヲ慈惠院ニ交付スルコトヲ得ス

○調書ノ文例

千八百何年何月何日、本職^{官吏ノ姓名官}狩獵ニ關スル法律ノ執行ヲ監察スルカ爲メ附屬吏員ヲ伴フテ管内巡行ノ際何街何番地食品商何某氏ノ店内ニ立入り其食物棚ヲ點檢シテ應禁ノ鳥獸ヲ貯藏スルヲ認メタリ^{其鳥獸ノ種類及ヒ}個數^ヲ依テ之ヲ押收シ違警罪タルコトヲ本人ニ告ケタリ

右ノ鳥獸ハ慈惠院ニ送致セラル可キモノナリ 是ニ由テ余ハ本書ヲ作り之ヲ朗讀シタル後ヲ附屬吏員

ト俱ニ之レニ姓名ヲ手署シタリ

(若シ其街賣スル鳥獸ニ係ル時ハ左ノ如ク記ス可シ)

余ハ午前又第何時何十分某地ニ到リタルニ荷籠ヲ負フ
テ人家ニ出入スル者アルヲ目撃ス怪シテ其籠中ヲ點檢
スレハ果シテ應禁ノ鳥獸ヲ納メタリ精細ニ其鳥獸ノ種
類及ヒ個數ヲ記載
ス依テ之ヲ押收シ其者ノ身分ヲ聞糺シタル後之レニ
其違警罪タルコトヲ告ケタリ

◎鐵道原語「シネマ
ソ、ド、フェル」

第一項 通行稅ヲ收受スルト否ト國庫ヨリ扶助金ヲ給
與スルト否ト及ヒ公領ヲ賣渡スト否トヲ問ハス政府
州、邑又ハ私立會社ニ於テ起業スル所ノ國道、運河、鐵道、
河川、入船所、船渠等ニ係ル大工業ハ行政上ノ審査ヲ遂

ケタル上ニテ制定シタル法律ニ據ルニ非サレハ執行
スルヲ得サルヲ以テ原則トス

第二項 長サ二萬メートル以下ノ州道、運河及ヒ枝線タ
ル鐵道ニ係ル工業ノ執行ハ行政上ノ審査ヲ遂ケタル
上ニテ制定シタル詔書ヲ以テ之ヲ允許スレハ足レリ
トス

第三項 鐵道收益ノ准許ヲ受ケタル者又ハ其請負人ノ
犯シタル道路ニ係ル違警罪ハ道路橋梁工師又ハ鑛山
工師或ハ鐵道ノ監察ヲ委任セラレタル警察使又ハ警
察副使ニ於テ之ヲ檢證ス但此正副警察使ハ工師ニ隸
屬シ及ヒ檢事ノ監督ヲ受ケテ司法警察官ノ職務ヲ行
フ者トス

又此違警罪ハ宣誓シタル土木嚮導、鑛山警人及ヒ土木
監吏ニ於テ之ヲ檢證スルヲ得

第四項 鐵道收益ノ准許ヲ受ケタル者ハ工師、警察使及
ヒ其他政府ニ屬スル諸吏員ノ如ク其所屬鐵道線路上
ニ於テ行ハレタル犯罪ノ調書ヲ作ルヲ得可キ宣誓
シタル役員ヲ置クヲ得

第五項 調書ハ其日附ヨリ十五日内ニ行政上ノ手續ヲ
以テ州長ヨリ之ヲ鐵道收益ノ准許ヲ受ケタル者及ヒ
其請負人ノ選定シタル住所ニ送達シ及ヒ全一ノ期限
内ニ之ヲ犯罪地ノ參事院ニ送達スル者トス
第六項 鐵道ニ關スル輕罪及ヒ違警罪ハ其數多シトス
其大畧ヲ舉クレハ即チ左ノ如シ

第一 鐵道線路ヲ毀損スル事

第二 鐵道線路上ニ障碍物ヲ置キ又ハ列車ノ進行
ヲ妨害スル爲メニ或ル方法ヲ用フル事

第三 鐵道線路ヲ距ル「二十メートル」以内ニ藁若
クハ秫ノ置場ヲ設クル事

第四 瀛車中ニ於テ吸烟スル事

第五 切符ヲ所持セスシテ乗車シ又ハ切符ニ指示
シタル車室ヨリモ他ノ車室ニ乗込ム事

第六 沈醉シテ乗車スル事

第七 裝藥シタル銃器ヲ携帯シテ乗車スル事

第八 口籠ヲ嵌メサル犬狗ヲ牽キテ通常車室ニ乗
込ム事

第七項 鐵道ニ關スル法律ニ掲ケタル重輕罪及ヒ違警罪ハ司法警察官各線路ノ鐵道警察使道路橋梁工師鑛山工師鑛山警人並ニ政府ニ於テ任命シ若クハ認許シ且宣誓シタル監吏及ヒ警人少作りタル調書ヲ以テ之ヲ檢證スルコトヲ得

第八項 右ノ調書ハ反對ノ證據出ツルニ至ルマテ信憑ヲ有ス可キ者トス

第九項 宣誓シタル吏員ニ於テ調書ヲ作りタル時ハ三日ノ期限内ニ犯罪ノ行ハレタル地又ハ其吏員ノ住居スル地ノ治安裁判官若クハ邑長ノ面前ニテ其真正ナルコトヲ保證スルヲ要ス然ラザレバ其効ナキ者トス
第十項 鐵道警察使ニ於テ作りタル重罪又ハ輕罪ニ係

ル調書ハ其犯罪地ノ檢事ニ送移シ又其大路ニ關スル違警罪ノ調書ハ工師ヲ經由シテ之ヲ州長ニ送移ス可キ者トス

○私有地ノ公用徵收ニ關スル千八百四十一年五月三日公布ノ法律

○第一篇 前加規則

第一條 公益ノ爲メ人民ヨリ私有地ヲ徵收スルハ裁判權ヲ以テ之ヲ行フ可キ者トス

第二條 裁判所ニ於テハ本法ニ定メタル法式ヲ以テ私有地ヲ徵收スルノ有益ナルコトヲ證シ且之ヲ廣告シタル上ニ非サレバ其土地ノ徵收ヲ言渡スコトヲ得ス○其法式ハ左ノ如シ

第一 私有地ノ徵收ヲ必要ト爲ス工業ノ執行ヲ允許スル法

律又詔書

第二條 右ノ法律又ハ詔書ニ於テ工業ヲ施ス可キ地方ヲ指定セラル時ハ其地方ヲ指定スル州長ノ決定書

第三條 右ノ決定書ヲ發シタル後ニ其徵收ス可キ私有地ヲ定ムル州長ノ決定書但第二編ニ記スル制規ニ循ヒ各關係人ヲシテ故障申述ヲ爲スヲ得ベカラシメタル後ニ非サレバ其私有地ヲ徵收スルヲ得ザル者トス

第三條 凡ソ政府州邑又ハ私立會社ニ於テ起業スル所ノ國道運河鐵道河川入船所船渠等ニ係ル大工業ハ通行稅ヲ收受スルニ否ト國庫ヨリ扶助金ヲ給與スルト否ト及ヒ公領ヲ賣渡スト否トヲ論セス行政上ノ審査ヲ遂ケタル後ニ制定シタル法律ニ據ルニ非サレハ之ヲ執行スルヲ得ズ(本條ハ千八百五十二年十月二十五日ノ元老院ノ)

決定書ヲ以テ之ヲ變更セリ○州道橋梁及ヒ長サ二萬メートル以下ノ枝線タル運河鐵道並ニ其他總テ重要ナラサル工業ノ執行ハ詔書ヲ以テ之ヲ允許スレハ足レリトス但其詔書モ亦行政上ノ審査ヲ遂ケタル後ニ非サレハ之ヲ下付スルヲ得ス而シテ其審査ハ行政法規ヲ以テ定メタル法式ニ循ヒ之ヲ行フ可キ者トス

○第二篇 私有地ノ徵收ニ關スル行政處分
第四條 工業ノ執行ヲ委任セラレタル技師又ハ技手ハ各邑ゴドニ其徵收ヲ必要ナリト思考スル地所又ハ建物ノ區分圖面プランヲ作ル可シ

第五條 右ニ記シタル私有地ノ區分圖面ニハ地租本帳マトリスブクロニ記載スル如ク各所有者ノ姓名ヲ表示シテ八日間之ヲ其私有地所在地ノ邑廳ニ備ヘ置キ各人ヲシテ自由ニ之ヲ閱覽スルヲ得セシム

可シ

七五二

第六條 前條ニ定メタル期限ハ邑廳ニ備ヘタル圖面ヲ閱覽ス可キ旨ヲ各關係人一統ヘ通知シタル時ヨリ之ヲ起算スル者トス
○此通知書ハ喇叭ヲ吹キ又ハ太鼓ヲ打チテ邑内ニ公告シ且邑廳ノ表門ト寺院ノ表門トニ之ヲ貼附ス可シ○又此通知書ハ其郡内ニ於テ發行スル一箇ノ新聞紙上ニ之ヲ掲載シ若シ其郡内ニ於テ發行スル新聞紙アルサル時ハ其州内ニ於テ發行スル一箇ノ新聞紙上ニ之ヲ掲載ス可シ

第七條 邑長ハ右ノ公告及ヒ貼附ヲ保證シ且調書ヲ作りテ出席各人ヨリ口上ヲ以テ受ケタル故障ノ申述及ヒ要求ヲ記入シ其各人ヲシテ之レニ署名セシム可シ又其受ケタル故障ノ申述及ヒ要求ニ係ル書面ハ之ヲ其調書ニ添附ス可シ

第八條 第五條ニ定メタル八日ノ期限ノ終リニ至リ郡廳所在ノ地ニ於テ委員會ヲ開ク可シ○該委員會ハ州長ヨリ指定シタル州會議員又ハ郡會議員四名ト徵收ス可キ私有地所在ノ地ヲ管轄スル邑長ト其工業ノ執行ヲ委任セラレタル技師一名トヲ以テ構成シ郡長之レニ上席ス可シ○該委員會ハ會員少クモ五名以上出席スルニ非サレハ適法ノ決議ヲ爲スヲ得ス○若シ其出席會員六名ニシテ可トスル者ノ數ト否トスル者ノ數ト相半ハスル時ハ上席人ノ投言ヲ以テ之ヲ決ス可シ○徵收セラレ可キ土地ノ所有者ハ會員タルヲ得ス

第九條 委員會ハ八日間各所有者ノ申述ヲ聽ク可シ○委員會ハ其適當ナリト思考スル毎トニ各所有者ヲ招喚ス可シ○又委員會ハ其意見ヲ申述ス可シ○委員會ノ事務ハ十日間内ニ終結シ

七五三

然レ後チ郡長ヨリ直チニ其調書ヲ州長ニ送移ス可シ○若シ右ノ期限内ニ委員會ノ事務ヲ終結セサル時ハ郡長ヨリ三日内ニ其調書ト其收受シタル證書類トヲ州長ニ送移ス可シ

第十條 若シ委員會ニ於テ技師ノ指定シタル線路ノ變更ヲ決シタル時ハ郡長ヨリ第六條ニ記シタル法式ニ循ヒ其變更ニ關係ヲ有スル各所有者ヘ直チニ其旨ヲ通知ス可シ○此通知ヲ爲シタル日ヨリ八日間ハ調書及ヒ證書類ヲ郡廳ニ備ヘ置ク可シ而シテ各關係人ハ郡廳ニ就キ無費ニテ之ヲ閱覽シ且其意見書ヲ差出ス可シ得可シ○郡長ハ右ノ期限後三日内ニ證書類ヲ悉ク州廳ニ送移ス可シ

第十一條 州長ハ調書及ヒ之レニ添ヘタル證書類ヲ檢閲シ其理由ヲ附記シタル決定書ヲ以テ徵收ス可キ土地ヲ定メ且其土地ヲ保有スルニ必要ナル時限ヲ指定ス可シ○然レモ州長ハ委員會ノ意見ニ因リ其嘗テ命令シタル工業ノ線路ヲ變更スルコトヲハ主管行政廳ニ於テ之ヲ裁定スルニ至ルマテ右ノ手續ヲ猶豫ス可シ○主管行政廳ニ於テハ其時ノ景況ニ從ヒ確定ノ裁定ヲ爲シ又ハ前數條ニ定メタル法式ノ全部或ハ一部ヲ更ニ履行ス可キ旨ヲ命令スルコトヲ得可シ

第十二條 第八條第九條及ヒ第十條ノ成規ハ一邑ヨリ其邑限リノ利益ノ爲メニ私有地ノ徵收ヲ求ムル場合又ハ邑道ノ新設或ハ改造ニ係ル工業ニ之ヲ適用ス可ラス○此場合ニ於テハ邑長ハ第七條ニ定メタル調書ヲ邑會ノ意見書ト共ニ郡長ニ送移シ郡長ハ更ニ自己ノ意見書ヲ添ヘテ之ヲ州長ニ送移ス可シ○州長ハ參事院ニ於テ右ノ調書ヲ檢閲シ前條ニ記シタル如ク裁定

之可シ但其裁定ハ主管行政廳ノ認可ニ付スルヲ要ス

○第三篇 私有地ノ徵收並ニ先取ノ特權書入質ノ權及ヒ其他ノ對物權ニ關スル徵收ノ効力

第十三條 本法第五條ニ據リ邑廳ニ備ヘタル圖面中又ハ第十一條ニ據リ主管行政廳ニ於テ允許シタル變更中ニ幼者治産ノ禁ヲ受タル者失踪者若クハ其他ノ無能力者ニ屬スル私有地ヲ包含スル時ハ後見人假リ保有者及ヒ其他總テ無能力者ノ代理人タル者ヨリ裁判所ニ願訴狀ヲ差出シテ其允許ヲ受ケ協議上ニテ其私有地ノ賣渡ヲ承諾スルヲ得可シ但此事ニ付テハ裁判所ハ評議局ニ於テ檢察官ノ意見ヲ聽クヲ必要トス○裁判所ハ其必要ナリト思考スル權利保全ノ處置又ハ金額益用ノ處置ヲ言渡ス可シ○此成規ハ嫁資ノ不動産及ヒ貴族ノ名稱ニ附屬ス

ル不動産ニモ亦之ヲ適用ス可キ者トス○州長ハ右ト同一ノ場合ニ於テ州會ノ決議ニ因リ其承諾ヲ得タル上ニテ州ノ不動産ヲ賣却スルヲ得可ク又邑長或ハ公舎ノ財産管理人ハ邑會或ハ財産管理會ノ決議ニ因リ其承諾ヲ受ケ且參事院ニ於テ州長ノ認可ヲ得タル上ニテ邑又ハ公舎ノ不動産ヲ賣却スルヲ得可シ○又大藏卿ハ皇帝歲給管理官ノ申立ニ因リ國ニ屬スル不動産又ハ帝位ニ屬スル不動産ノ賣却ヲ允諾スルヲ得可シ○若シ徵收セサルヲ得スト認定セラレタル地所又ハ建物ノ所有者或ハ其代理人ト協議上ノ契約ヲ爲スヲ得サル時ハ州長ヨリ其不動産ノ所在地ヲ管轄スル檢事ニ工業ノ執行ヲ允許シタル法律又ハ詔書ト第十一條ニ記シタル決定書トヲ送付ス可シ第十四條 檢事ハ前條ニ記シタル法律又ハ詔書及ヒ決定書ヲ受

取リタルヨリ三日内ニ本法第一篇ノ第二條ト第二篇トニ定メ
 タル法式ヲ履行シタル旨ヲ記スル證書類ヲ差出サシメタル上
 ニテ州長ノ決定書ニ指定シタル地所或ハ建物ヲ公益ノ爲メ徵
 收ス可キヲ裁判所ニ要求シ而シテ裁判所ニ於テハ其旨ヲ言
 渡ス可シ○州長ノ決定書ノ日子ヨリ一箇年内ニ行政官廳ニ於
 テ私有地ノ徵收ヲ決行スルノ手續ヲ爲サ、ル時ハ右ノ決定書
 中ニ包含シタル土地ノ各所有者ヨリ裁判所ニ願訴狀ヲ差出ス
 ヲ得可シ而シテ此願訴狀ハ檢事ヨリ州長ニ送付シ州長ハ遲
 怠ナク證據書類ヲ裁判所ニ送移シ裁判所ニ於テハ三日内ニ之
 ヲ裁判ス可シ○其裁判宣告書ニハ第四篇第二章ニ於テ償金ヲ
 定ムルヲ委任セラレタル審査監督裁判官ニ付與シタル職務
 ヲ行ハシムル爲メニ裁判官一名ヲ任命シタル事及ヒ其裁判官

ニ差支アルニ當リ之レニ代ハル可キ裁判官一名ヲ指定シタル
 事ヲ記ス可シ○若シ右ニ記シタル裁判官二名共ニ不在ナル乎
 或ハ差支アル時ハ民事裁判所長ノ牒求ニ因リ命令書ヲ以テ之
 レニ代ハル可キ者ヲ指定ス可シ○地所又ハ建物ヲ徵收セタル
 可キ所有者ニ於テ其賣却ヲ承諾シタリト雖モ其代價ノ一點ニ
 付キ協議調ハザル時ハ裁判所ニ於テ其賣却ノ承諾證書ヲ付與
 シテ審査監督裁判官ヲ指定ス可シ但此場合ニ於テハ其徵收ノ
 裁判宣告ヲ爲スニ及ハス又第二篇ニ定メタル法式ヲ履行シタ
 ルヤ否ヤヲ檢スルニ及ハス

第十五條 裁判宣告書ノ摘撮書ハ第六條ニ記シタル方法ヲ以テ
 不動産ノ所在邑ニ公告及ヒ貼附ス可シ又此宣告書ハ其郡内ニ
 於テ發行スル一箇ノ新聞紙上ニ之ヲ掲載シ若シ其郡内ニ於テ

發行スル新聞紙アラサル時ハ其州内ニ於テ發行スル一箇ノ新聞紙上ニ之ヲ掲載ス可シ○不動産所有者ノ姓名及ヒ裁判宣告ノ文面ト理由トヲ記シタル右ノ摘撮書ハ其所有者ヨリ當テ不動産所在地ノ邑廳ニ差出セル届書ヲ以テ其所在地ノ郡中ニ於テ撰定シタル住所ニ之ヲ送達ス可シ若シ其住所ヲ撰定セザリシ時ハ摘撮書二通ヲ作り一通ヲ邑長ニ送達シ一通ヲ不動産ノ借受人監守人或ハ管理人ニ送達ス可シ○其他本法ニ定メタル書類ノ送達ハ總テ右ニ記シタル法則ニ依リ之ヲ爲ス可シ

第十六條 裁判宣告書ハ前條ニ定メタル法式ヲ履行シタル後テ直チニ民法第二千八百八十一條ニ循ヒ其郡ノ不動産書入質保管局ノ簿冊ニ之ヲ登記ス可シ

第十七條 先取ノ特權及ヒ契約上、裁判上又ハ法律上ノ書入質ノ

權ハ右ノ登記ヨリ十五日内ニ之ヲ記入ス可シ○若シ此期限内ニ記入セザル時ハ徵收セラレタル不動産ニ付テ各種ノ先取ノ特權及ヒ書入質ノ權ヲ免除シタルモノト爲ス可シ但此成規ト未タ償額ヲ拂渡サス或ハ各債主間ノ順序ヲ確定セサル間ハ婦女幼者及ヒ治産ノ禁ヲ受ケタル者ニ於テ其償額ヲ得可キノ權利ト相觸ル、ト勿ル可シ○先取ノ特權又ハ書入質ノ權ヲ記入シタル債主ハ如何ナル場合ト難ヒ其不動産ノ代價ヲ糶上シルノ權ヲシ然レハ第四篇ニ循ヒ其額ヲ定メシトテ要求スルヲ得可シ

第十八條 所有解除ニ係ル訴訟權、所有取戻ニ係ル訴訟權及ヒ其他如何ナル對物訴訟權アリト雖ヒ之レガ爲メニ不動産ノ徵收ヲ防止シ及ヒ其徵收ノ効ヲ妨碍スルコトヲ得テ此訴訟權ヲ行フ

者ノ權利ハ其不動産ノ代價ニ轉移シ不動産ハ其權利ニ對スル義務ヲ免カル可シ

第十九條 第十五條ノ第一項及ヒ第十六條第十七條第十八條ニ定メタル成規ハ行政官ト所有者トノ間ニ取結ビタル協議上契約ノ場合ニ之ヲ適用ス可シ○然レモ行政官ハ前ニ記シタル法式ヲ履行セヌシテ五百法以下ノ買入代金ヲ拂渡スヲ得可シ但之レガ爲メニ第三ノ人ノ權利ヲ害ス可ラス○不動産書入質ニ係ル義務ヲ滌除スルノ法式ヲ履行セスト雖モ其不動産徵收手續ノ進捗ヲ妨ケサル者トス但各關係人ハ本法第四篇ニ定メタル法式ヲ以テ後ニ其權利ヲ伸暢スルヲ得可シ

第二十條 裁判宣告ニ付テハ破毀法院ニ上告スルニ非サレハ其取消ヲ得ント訴フルヲ得ス但其上告ハ裁判所ノ管轄違ヒ又

ハ權力ノ妄用或ハ裁判宣告ノ法式違背ニ係ル時ニ限ル者トス
○此上告ハ裁判宣告書ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ遅クモ三日内ニ裁判所ノ書記局ニ申述シテ之ヲ爲ス可シ又其上告書ハ八日内ニ第十五條ニ記シタル相手方ノ住所ニ送達シ又ハ工業ノ種類ニ從ヒ州長或ハ邑長ニ送達ス可シ但右ノ期限ヲ經過シタル時ハ上告ノ權利ヲ失フ者トス○上告書ヲ送達シタルヨリ十五日内ニ證據書類ヲ破毀法院ノ民事局ニ差出シ民事局ニ於テハ其時ヨリ一箇月内ニ之ヲ裁判ス可シ○右ノ期限ノ經過シタル後ニ欠席裁判ヲ爲シタル時ハ其裁判ニ對シテ故障ノ申述ヲ爲スヲ得ス

○第四篇 償額ノ規定

○第一章 豫備ノ處分

第二十一條 不動産ノ所有者ハ第十五條ニ定メタル書類送達ノ時ヨリ八日内ニ其借受人、小作人又ハ民法ニ定ムル所ニ循ヒ入額所得權、家屋住居權又ハ使用權ヲ有スル各人及ヒ所有者ノ證券或ハ其他所有者ノ關涉シタル證書ニ據リ土地ニ屬スル義務ノ執行ヲ要求スルヲ得可キ各人ヲ行政官廳ニ届ケ置ク可シ若シ之ヲ届ケ置カサル時ハ其所有者一人ニテ右各人ヨリ要求スルヲ得可キ債額ヲ負擔セサル可ラス○前項ニ列記シタルヨリモ他ノ關係人ハ第六條ニ記シタル通知ニ因リ其權利ヲ伸暢スル爲メ右ニ記スルト均シク八日ノ期限ニ於テ行政官廳ニ届出ツ可シ若シ之ヲ届出ザル時ハ總テ其債額ヲ得ルノ權利ヲ失フ者トス

第二十二條 不動産ノ所有者及ヒ其債主ニ關スル本法ノ成規ハ

入額所得者及ヒ其債主ニモ亦之ヲ適用ス可シ

第二十三條 行政官廳ハ各所有者ト第二十一條ニ定メタル期限内ニ其姓名ヲ申立ラレ又ハ自カラ申立タル各關係人トニ其債額トシテ拂渡サント陳告スル金額ヲ通知ス可シ○又其拂渡サント陳告スル金額ハ本法第六條ニ循ヒ之ヲ公告及ヒ貼附ス可シ

第二十四條 各所有者及ヒ其他ノ各關係人ハ前條ノ通知ヲ受ケタルヨリ十五日内ニ行政官廳ノ陳告ヲ承諾シタル旨ヲ届出ツ可シ若シ之ヲ承諾セサル時ハ其收受セント欲スル金額ヲ申立ツ可シ

第二十五條 夫ノ補助ヲ受クル嫁資分括ノ法ニ循ヒ結婚シタル婦女、後見人、失踪者ノ財産ヲ假リニ保有スル者及ヒ其他總テ無

能力者ノ代理人タル者ハ第十三條ニ定メタル法式ニ據リ裁判所ノ允許ヲ得タル上ニテ第二十三條ニ記スル行政官廳ノ陳告ヲ法ニ適シテ承諾スルヲ得可シ

第二十六條 大藏卿、州長、邑長又ハ公舎ノ管理人ハ第十三條ニ記シタル法式ニ循ヒ且同條ニ記シタル允許ヲ得タル上ニテ政府、帝室州、邑又ハ公舎ニ屬スル財産徵收ノ爲メ行政官廳ヨリ拂渡サント陳告スル債額ヲ受クルヲ承諾スルヲ得可シ

第二十七條 第二十四條ニ定メタル十五日ノ期限ハ第二十五條及ヒ第二十六條ニ記シタル場合ニ於テハ一箇月間ト爲ス可シ

第二十八條 行政官廳ニ於テ拂渡サント陳告シタル金額ノ第二十四條及ヒ第二十七條ニ定メタル期限内ニ承諾ヲ得サリシ時ハ特ニ審査會員ヲ招集シテ其面前ニ各所有者及ヒ各關係人ヲ

呼出シ次章ニ定ムル所ノ方法ヲ以テ債額ノ規定ニ着手セシム可シ但其呼出狀ニハ所有者及ヒ其他各關係人ニ於テ收受スルコト者額及ヒ金額ヲ附記ス可キ者トス

○第二章 債額ノ規定ヲ委任セラレタル特別審査會

第廿九條 各州會ハ毎年ノ通常會ニ於テ各郡ゴトニ陪審人姓名簿ノ第二部中ト選舉人ノ姓名簿中ヨリ其郡内ニ本住所ヲ有スル者三十六名以上七十二名以下ヲ指定シ其中ヨリ州會ノ次ノ通常會ニ至ルマデニ公益ノ爲メ私有地ヲ徵收スルコトアルニ當リ其債額ヲ規定ス可キ特別審査員ヲ撰擢ス可シ○塞納州ニ於テハ審査員六百名ヲ指定ス可シ

第三十條 特別審査會ニ囑託ス可キ事件アル毎トニ上等裁判所ニ在リ各州ニ於テハ其上等裁判所ノ第一局ニ於テ又其他ノ各

州ニ於テハ裁判區ノ治所ニアル初審裁判所ノ第一局ニ於テ内
 密會議ヲ開キ前條ノ成規ニ循ヒ不動産ノ徵收ヲ行フ可キ各郡
 ノ爲メニ作リタル姓名簿中ヨリ其償額ヲ確定スル特別審査會
 ヲ構成ス可キ人員十六名及ヒ補充員四名ヲ撰任ス可シ○又裁
 判所ノ休暇間ニ於テハ其休暇中裁判事務取扱ノ委任ヲ受ケ
 ル上等裁判所ノ第一局又ハ初審裁判所ノ第一局ニ於テ右ノ人
 員ヲ撰任ス可シ○若シ初審裁判所ノ裁判官自カラ其撰任ヲ爲
 スコトヲ避ケ又ハ其撰任ヲ爲スニ付テ他ヨリ故障セラレタル時
 ハ上等裁判所ニ於テ審査員ヲ撰任ス可シ○左ニ列記スル各人
 ハ審査員ニ撰任セラレ、コトヲ得ス

第一 第十一條ニ據リ制定シタル州長ノ決定書ニ指定セル
 徵收セラレ可キ地所又ハ建物ノ所有者及ヒ借受人

第二 右ノ不動産ニ付テ其權利ヲ記入シタル債主

第三 第二十一條及ヒ第二十二條ニ從ツテ申立ラレ又ハ自
 カラ申立タル各關係人

七十歳以上ナル者ハ其求メニ因リ審査員ノ職務ヲ免カルコトヲ
 得可シ

第三十一條 州長ハ審査員十六名ト補充員四名トノ姓名簿ヲ郡
 長ニ送付シ郡長ハ審査監督裁判官ト協議ノ上ニテ審査員及ヒ
 關係人ヲ招集ス可シ但審査員及ヒ關係人ヲ招集スルニ付テハ
 少シモ八日前ニ其會集ノ場所ト日時トヲ通知スルヲ要ス○又
 關係人ニ送達スル通知書ニハ審査員ノ姓名ヲ記載ス可シ
 第三十二條 正當ノ理由ナクシテ集會ニ欠席シ又ハ商議ニ參與
 スルヲ拒ミタル審査員ハ百法以上三百法以下ノ罰金ニ處ス可

○此罰金ハ審査監督裁判官ヨリ之ヲ宣告ス可シ而シテ若シ其宣告ヲ受ケタル審査員ヨリ故障申述ヲ爲ス時ハ審査監督裁判官ニ於テ終審ノ裁判ヲ爲ス可シ○審査員ヨリ申立ツル所ノ差支ノ原因并ニ第三十條ニ據リ審査員ヲ指定シタル後ニ起リ或ハ知レタル排除ノ原因及ヒ審査員ノ職ヲ兼テ行フ可ラサル原因モ亦審査監督裁判官ニ於テ之ヲ裁定ス可シ

第三十三條 前條ニ記シタル差支ノ原因又ハ排除ノ原因或ハ審査員ノ職ヲ兼テ行フ可ラサル原因ノ爲メ姓名簿上ヨリ審査員ノ姓名ヲ削除シタル時ハ審査監督裁判官ニ於テ直チニ補充員ヲ以テ其缺ヲ補フ可シ但其順序ハ姓名簿ニ登記ノ次第ニ從フ可キ者トス○若シ其補充員ノ入數不足ナル時ハ審査監督裁判官ニ於テ第二十九條ニ從ツテ作リタル姓名簿中ヨリ審査員十

六名ヲ補足スルニ必要ナル人員ヲ撰擢ス可シ

第三十四條 審査監督裁判官ハ特別審査會ニ於テ裁判所ノ書記又ハ書記補ノ補助ヲ受ク可シ但書記及ヒ書記補ハ審査會ノ裁定ス可キ訴訟ヲ逐次呼上ケ且其裁定ニ係ル調書ヲ作ル者トス○行政官ハ訴訟呼上ケノ時ニ於テ審査員二名ニ付キ故障ヲ述ボルノ權アリ而シテ其相手方本人モ亦同一ノ權ヲ有ス可シ○若シ一事件ニ於テ關係人數名アルキハ相共ニ協議シテ審査員ニ係ル故障申述ノ權ヲ行フ可シ然ラサレハ抽籤ヲ以テ其權ヲ行フ可キ者ヲ定ム可シ○故障申述ノ權ヲ行ハサル乎或ハ唯ダ其權ノ一部ノミヲ行フタル時ハ審査監督裁判官ニ於テ審査員ノ入數ヲ十二名ニ減ス可シ但其法ハ姓名簿中最後ニ記シアル姓名ヨリ順次ニ削除スル者トス

第三十五條 特別審査會ハ審査員十二名出席シタル時ニ非サレ

ハ之ヲ組成スルコトヲ得ス○審査員ハ少クモ九名以上出席ルニ

非サレハ適法ノ決議ヲ爲スコトヲ得ス

第三十六條 審査會ヲ組成シタル時ハ各審査員ニ於テ偏頗ナク

公平ニ其職務ヲ執行ス可キノ宣誓ヲ爲スコトヲ得

第三十七條 審査監督裁判官ハ左ニ列記スル諸件ヲ審査會示シ

ス可シ

第一 第二十三條及ヒ第二十四條ニ據リ拂渡サント陳告シ

タル金額及ヒ收受セント要求シタル金額ノ表

第二 金額ヲ拂渡サントスル陳告書及ヒ金額ヲ收受セント

要求書ニ添ヘテ雙方ヨリ差出シタル區分圖面、證券若

クハ其他ノ證據書類

雙方ノ者又ハ其名代人ハ簡畧ニ其意見ヲ述ブルコトヲ得可シ○
審査會ハ其事由ヲ明白ナラシムルニ有益ナリト思考スル各人
ヲ呼出シテ其申述ヲ聽クコトヲ得可シ○又審査會ハ徵收ス可キ
土地ニ出張シ又ハ審査員中ノ一名若クハ數名ヲ其土地ニ派遣
スルコトヲ得可シ○審査會ノ討議ハ公ケニ之ヲ爲シ且此ノ集會
ヨリ彼ノ集會ニ繼續シテ之ヲ爲スコトヲ得可シ

第三十八條 訴訟審理ノ終結シタル時ハ審査監督裁判官ヨリ其
旨ヲ宣告ス可シ○審査員ハ直チニ其會議所ニ退キ即時ニ上席
人一名ヲ互選シテ決議ヲ爲スコトヲ得可シ○審査會ノ決議ハ多數ニ從
ヒ價金ノ價額ヲ定ムル者トス○若シ可トスル者ノ數ト否トス
ル者ノ數ト相半ハスル時ハ上席人ノ投言ヲ以テ之ヲ決ス可シ
第三十九條 審査會ハ第二十一條ニ記シタル如ク所有者、借受人、